Realize Customize Maximize

TRIPLEIZE

事業計画及び
成長可能性に関する事項

株式会社トリプルアイズ
（証券コード：5026）
2026年11月25日

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

INDEX

01 | 会社概要

02 | 市場環境

03 | 競争優位性

04 | 成長戦略

05 | 財務情報

06 | Appendix

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

経営理念

テクノロジーに
想像力を載せる

創業者の故福原智は誓いました。
「**ことばにできればすべてシステムにできる**」と。
わたしたたちは改めてこの誓いを胸に、
希望、夢、挑戦、幸福という想像力を
AIをはじめとした先端テクノロジーに載せて
未来に運びます。
DNAが遺伝子の乗り物であるように、
テクノロジーはわたしたちの想像力の乗り物なのです。



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

新代表メッセージ

技術の力で、常識を覆す。

① 継承（DNA）

創業来培ってきた「**テクノロジーファースト**」と、「**画像認識AI技術**」という基盤は、今後も当社の核であり続けます。既存のAPIを組み合わせるだけのAIソリューションでは、これからの時代を勝ち抜けません。**自社AI開発へのこだわり**こそが、我々の存在意義でもあり競合優位性でもあります。

② 変革（Evolution）

私の使命は、この高い技術力を「**確実な収益**」へと転換することです。 これまでの「技術開発フェーズ」から、**AI社会実装による「事業拡大フェーズ」**へとギアを上げます。SI事業の堅実さとAI事業の爆発力を融合させ、より収益性の高いビジネスモデルへと変革させてまいります。

③ コミットメント（Commitment）

透明性の高い経営と、スピード感のある意思決定により、爆発的な成長を実現します。新代表として、私はこの技術力をさらに研ぎ澄ませ 進化させ このVUCA時代を技術の力で突破します。

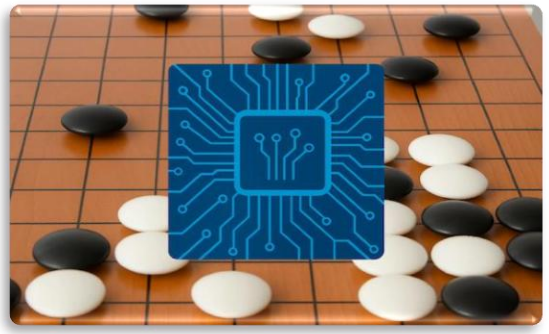
代表取締役CEO　片渕 博哉



トリプルアイズの技術系譜

囲碁、顔認証、生成AIと、一見バラバラに見えるわたしたちの技術は、一本の線で繋がっています。
そして次に来るフィジカルAI時代に必要な技術こそ、私たちが極めてきた領域そのものです。

囲碁AI（Origin）



画像認識　探索最適化

局勢判断における画像認識と宇宙の元素より多いの選択肢から「最適解」を導く探索エンジン。
強化学習の基礎。

顔認証（AIZE）



画像認識　ベクトル検索

画像認識による個人の顔の特徴量を深く読み込む技術と 登録されているDBからいかに速く正確にベクトル検索するかが求められる。また個人情報レベルMAXのデータを扱った特化型自社AIモデル開発。

生成AI（RAG）



LLM　ベクトル検索

文章をベクトル化し、最も近い意味合いの回答・文章を検索する。
システム全体の精度向上施策、スピード改善など顔認証で培った技術をフル活用。

フィジカルAI（Future）



画像認識　LLM　探索最適化

生成AIはあくまでソフトウェアの領域での活用まで。今後は人間の物理空間まで拡張したフィジカルAIにシフトしていく。
目(画像認識)×脳(LLM)×行動(探索)
現実空間での最適行動選択において囲碁AIの技術知見が活きる。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

多くの業種に広がるAI導入実績

Case study 建設業 M社

顔認証×生成AIの受付ロボット

来訪者対応を自動化し受付業務を省人化



◆顔認証で来訪者を識別し、担当者へ自動で取次ぎ
◆生成AIと連携し、自然な対話で来訪者を案内
◆ヘルメット・マスク着用時も認証、非接触検温に対応
◆受付業務の負荷軽減とブランドイメージ向上に寄与

Case study 映像制作 N社

AIによる演出の異常チェック

動画の欠け・表示異常を自動検出



◆映像・画像をAIが解析し、欠けや表示異常を自動検出
◆目視に頼っていた確認工数を削減し、品質を安定化
◆新規演出の制作時に、イメージ案の作成をAIで支援

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

多くの業種に広がるAI導入実績

Case study 医療 K社

AIによる配送ルート最適化

ベテランの暗黙知を可視化し技術を伝承

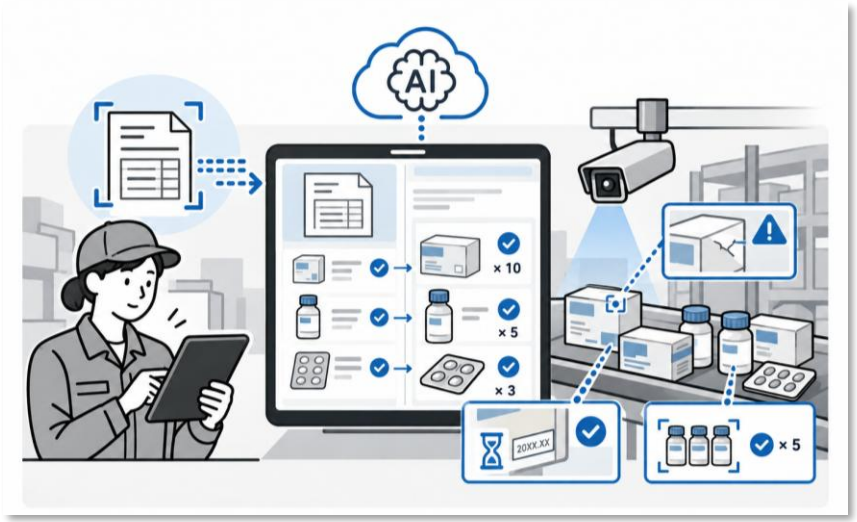


◆ベテランが持つ道順・駐車位置などのノウハウをデータ化
◆配送先ごとの注意点を共有し、若手へ技術を伝承
◆伝票読取からルート作成・ナビまで一つのアプリで支援
◆走行データをAIが分析し、ルートを継続的に改善

Case study 医療 L社

画像認識×OCRによる検品AI

検品・棚卸を「人の目」から「AIの目」へ



◆OCRで注文書を読み取り、品種・数量を自動照合
◆画像認識で外装破損や見逃しやすい傷を検知
◆使用期限の自動チェックでヒューマンエラーを削減
◆商品の自動カウントで棚卸業務を省力化

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AI時代のサイバーリスク対策

サイバー攻撃は企業経営を脅かす社会問題となり、ランサムウェア被害は2024年に国内で222件、平均すると1日約0.6件が警察庁に報告された。AIによる攻撃の高度化に加え、企業にはAI活用と情報保護の両立が求められている。

AI時代のサイバー攻撃・データ流出の深刻化

■攻撃の高速化・自動化
AIによる攻撃自動化が進展。公的機関の共通システムでも不正アクセス事案が発生

■サプライチェーン被害
大手食品メーカーでランサムウェアにより基幹システムが停止。委託先起点の被害も

■シャドーAIと情報流出
外部AIへの情報入力が新たなリスクに。無断利用・誤送信を防ぐ運用統制が必要

当社の独自性「エッジ顔認証・オンプレAI」の技術基盤と、大手インフラ企業にコンサルティングする「ITガバナンスの設計力」の両輪を備える強み！

【アーキテクチャ】侵入・流出を防ぐセキュア基盤

① エッジ顔認証 × 多要素認証（MFA）

クラウドID・パスキーとAIZEエッジ顔認証を連携
端末内で本人確認を完結し、不正アクセスを防止
実績：イノテックとの共同開発・提供（2025.01.16）

② 完全閉域のオンプレ／ローカル生成AI

ゼロフィールド・BEXの技術で、閉域・オンプレ環境にRAG／ローカルLLMを構築
機密データを社外に出さずにAI活用を実現
実績：自動車業界向けローカル生成AIの共同開発（2026.04.20）





【ガバナンス】有事に即座に判断できる統制支援

① 技術だけでは防ぎきれない「運用の隙」を統制

情報・利用環境・用途・権限の境界線を明確化し、運用ルールを策定

② 有事の初動オペレーションを設計

取引先の遮断・現場の停止権限を含め、初動対応とエスカレーションの判断基準を策定

③ プライム上場大手企業への支援実績

社会インフラを担う大手企業の経営層へ、AIリスク管理・サイバーガバナンスのコンサルティング／講演を提供

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

サイバーセキュリティ室を新設

近日ローンチ

AI活用を止めないためのサイバーセキュリティサービス

AI活用の推進 × セキュリティ防御 の両立を支援

2026年10月 新設

サイバーセキュリティ室

社内横断 × 高いレイヤーまで理解する技術者

- 自社開発・品質管理の強化
- グループ全体のセキュリティ強化
- AIをフル活用した脅威検知態勢
- AIZE・PRISMの強化
- お客様向けセキュリティ研修
- 最新脅威は技術者が担う

これまでの実績

【アーキテクチャ】
侵入・流出を防ぐセキュアな基盤づくり

- エッジ顔認証×MFAで構成内で本人確認を完結
- 完全閉域のオンプレミス／ローカル生成AI（グループ会社BEXと共同開発）

【ガバナンス】
有事に即座に判断できる統制づくり

- 情報・権限の境界を定める運用ルール整備
- 初動対応・エスカレーション基準の設計
- プライバシー企業への支援実績

【オペレーション】
深いレイヤーまで理解する技術者集団

- PHP脆弱性対応でパッチ適用後の再ビルドや動作確認を緊急かつ安全に実施
- オープンソースやミドルウエアなどの深いレイヤーを熟知
- AIの出力を最終的に鑑識・制御できる技術者が社内に多数在籍

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

役員プロフィール



代表取締役CEO

片渕 博哉

トリプルアイズ取締役

2016年、トリプルアイズ入社。画像認識・機械学習の専門家として、画像認識プラットフォーム「AIZE」や音楽レコメンドサービスなど、幅広いAIソリューションを開発。囲碁AI研究開発においては、プロジェクトマネージャとして強化学習を活用した高度なアルゴリズムの開発をリードし、競技AIにおける技術応用を実現。AI教育プログラム「AT20」の責任者として、カリキュラム設計・教材開発を主導。企業向け講演活動を通じ、AI技術の普及と人材育成に貢献。



代表取締役会長

山田 雄一郎

トリプルアイズ取締役

早稲田大学商学部卒業。2005年12月EY新日本監査法人入社。2011年3月監査国際部より異動し、成長戦略室等にて官民連携の経営改革・経営統合に係るコンサルティングを9年間実施（うち2012年から2017年は新日本パブリックアフェアーズ株式会社に出向）、多数のプロジェクトマネージャーを歴任。
2020年11月、株式会社トリプルアイズ取締役就任。2021年3月、同社代表取締役就任。



取締役 CFO

加藤 慶

トリプルアイズ取締役

明治大学法学部卒業。ベンチャー・リンクを経て、EY新日本有限責任監査法人のIPO専門部隊に所属、在籍時に三井不動産株式会社ベンチャー共創事業部に出向しCVCファンド組成に携わる。2018年以降、上場準備会社におけるCFO、取締役を歴任。 2019年、株式会社すららネット取締役(監査等委員)就任(現任)。2020年、株式会社ライナフ監査役就任(現任)。2021年9月、株式会社トリプルアイズ取締役就任。2023年10月当社グループ会社株式会社ゼロフィールド取締役就任(現任)。
2024年7月当社グループ会社株式会社BEX取締役就任(現任)。



上級執行役員

徳永 寛

トリプルアイズ上級執行役員

東芝九州、日本DECでSEとして経験を積んだ後、1995年よりマイクロソフトでエンタープライズ営業に従事し、製造・パートナー・金融各事業の営業部長、業務執行役員を歴任。IBMでは保険事業の理事、アドビでは執行役員を歴任し、エンタープライズ事業の立ち上げ・拡大を牽引。2026年9月、トリプルアイズ上級執行役員に就任。



技術顧問

山本 卓

技術顧問

1982年京都大学大学院修了、トヨタ自動車株式会社入社。クラウンのチーフエンジニア等を経て2014年常務役員、Lexus International Co. Executive Vice President、2020年トヨタ紡織株式会社取締役副社長。



技術顧問

松原 仁

技術顧問

京都橘大学工学部情報工学科教授。はこだて未来大学特任教授。京都橘ロボカップ日本委員会会長、観光情報学会長、人工知能学会長などを歴任。
1959年、東京生まれ。86年、東京大学大学院情報工学博士課程修了。同年、通産省工業技術院電子技術総合研究所（電総研、現在の産業技術総合研究所）入所。元、東京大学次世代知能科学研究センター（AIセンター）教授。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

事業内容

売上割合	84.3%※			15.7%※
セグメント	AIソリューション			GPUサーバー
サブセグメント	AIインテグレーション	AIプロダクト	エンジニアリング	
事業概要	AI/システムの開発、 AIに関するコンサルティング、業種別パッケージの導入等	顔認証AI・画像認識AIを搭載した自社サービス提供及びサービス提供に伴って生じるデバイスやカスタマイズ開発	主に自動車メーカー向けの設計開発業務の役務提供	独自開発ソフトを搭載したGPUマシンやモジュール型データセンター「DINO」、AI向けGPUサーバーの提供及び、それらに伴う保守管理サービス
Realize Customize Maximize TRIPLEIZE	●	●		
BEX			●	
ZEROFIELD				●

※ 2026年8月期の実績値をもとに算出

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

主要取引先企業

自治体

世田谷区 SETAGAYA CITY

小売・流通

ヨークベニマル

銀座メガネコンタクト

総合商社

Marubeni

金融

JIA Japan Investment Adviser

鉄道

人へ、街へ、未来へ。 東急電鉄

物流

NIPPON EXPRESS

電気機器

INNOTECH CORPORATION

食品卸

PRECO GROUP

医療・医薬品

MEDICAL SYSTEM NETWORK GROUP

情報通信

LINE WORKS

Sony Biz Networks Corporation

TeamSpirit

kaonavi

CUBE SYSTEM

ASPIT

建設ICT

CTS Construction Total Support service 株式会社シーティーエス

建設・機械

「建てる」を超え、未来を生みだす。 東急建設

KAWADA CONSTRUCTION CO.,LTD.

JCM GLOBAL

電気機器

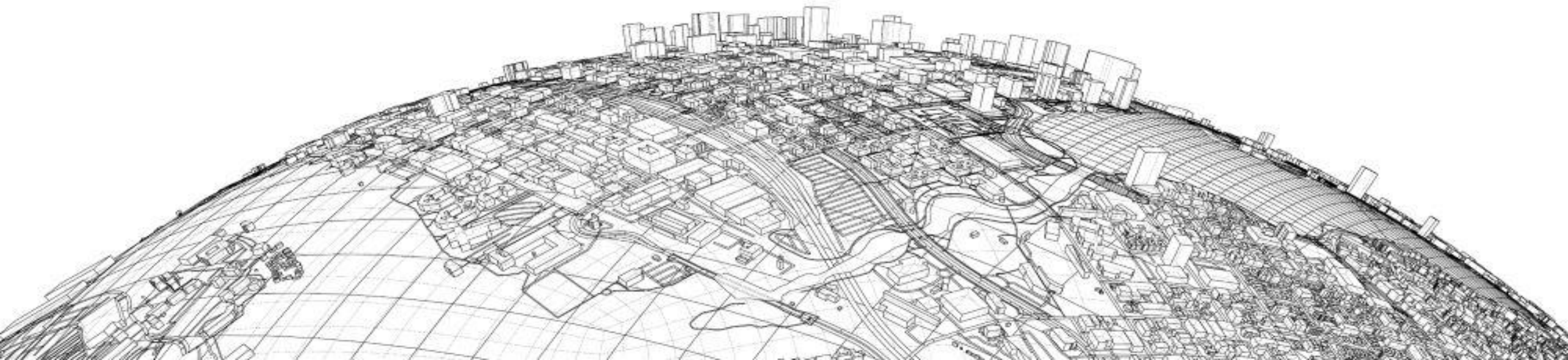
brother at your side

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

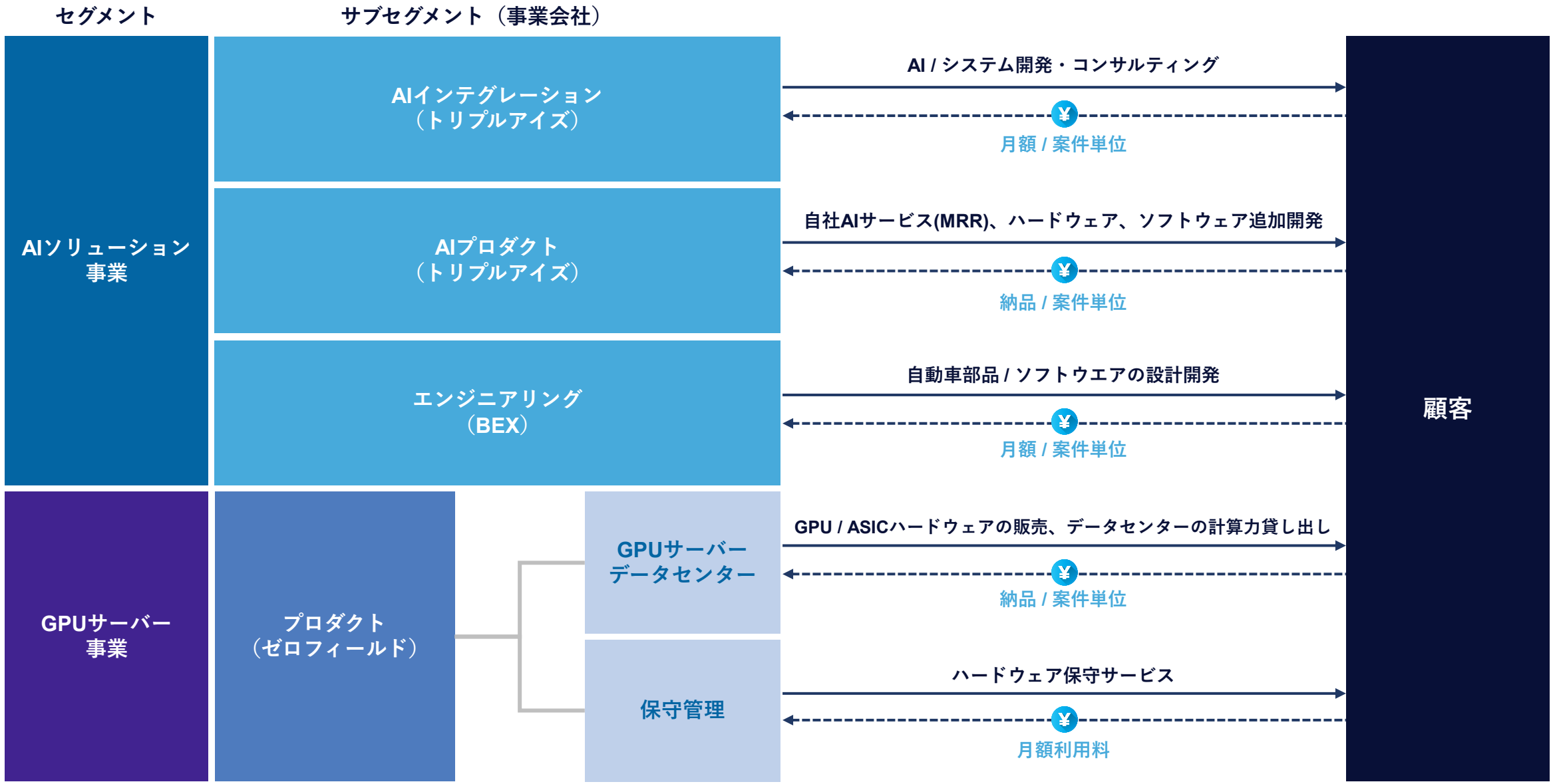
会社概要

会社名	株式会社トリプルアイズ（英名：TRIPLEIZE CO., LTD.）
代表取締役 CEO	片渕 博哉
設立	2008年9月
所在地	東京都港区芝浦3丁目4ー1 グランパークタワー 32F
役職員数	連結：465名、単体：251名
市場区分	東証グロース市場（証券コード：5026）

事業内容	システムインテグレーションおよびAIプラットフォームの提供
関係会社	株式会社所司一門将棋センター、株式会社シンプルプラン、株式会社ゼロフィールド、株式会社BEX
特許	情報処理装置、情報処理方法、及びプログラム（出願番号：特願2020-067799） 複数拠点における時間的整合性を根拠とする本人認証AIシステム
資格	ISO 9001　JQA-QMA15648（品質）、ISO/IEC 27001　JQA-IM1456（情報セキュリティ） ISO/IEC 27017　JQA-IC0003（クラウドサービスセキュリティ）



グループの事業系統図



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

INDEX

01 | 会社概要

02 | 市場環境

03 | 競争優位性

04 | 成長戦略

05 | 財務情報

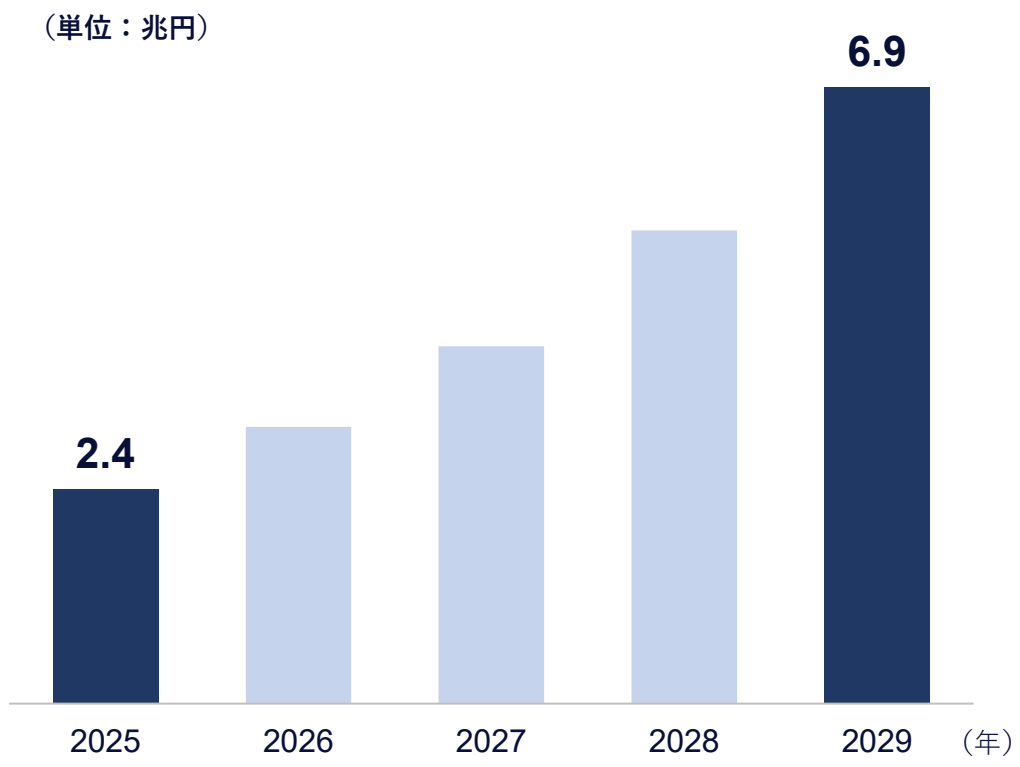
06 | Appendix

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AI市場の動向

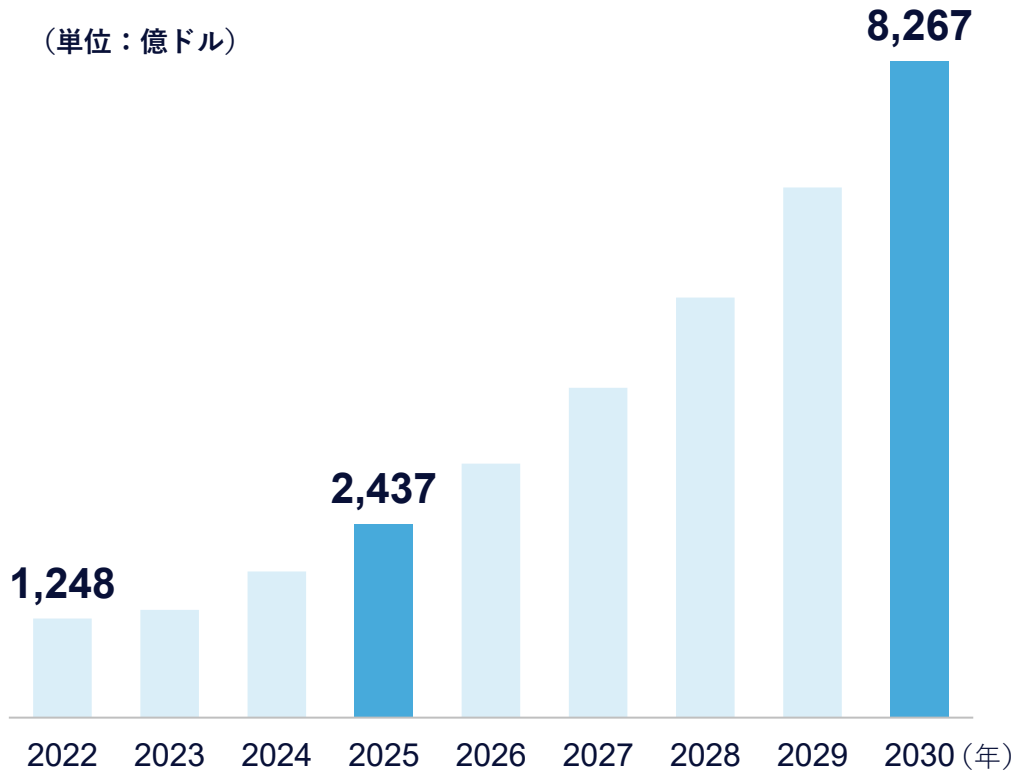
各種調査によると、国内のAI市場は2029年に約6.9兆円、世界のAI市場は2030年に約8,260億ドル（約130兆円）規模にまで成長することが予想されています。

国内AIシステムの市場規模



出典：IDC「Worldwide AI and Generative AI Spending Guide 2026V1」（2026年3月発表）
なお、2026年～2028年のデータは、実数値が公開されていないことから、出典元の成長率に基づき当社で推計値を入力しております。

世界のAI市場規模



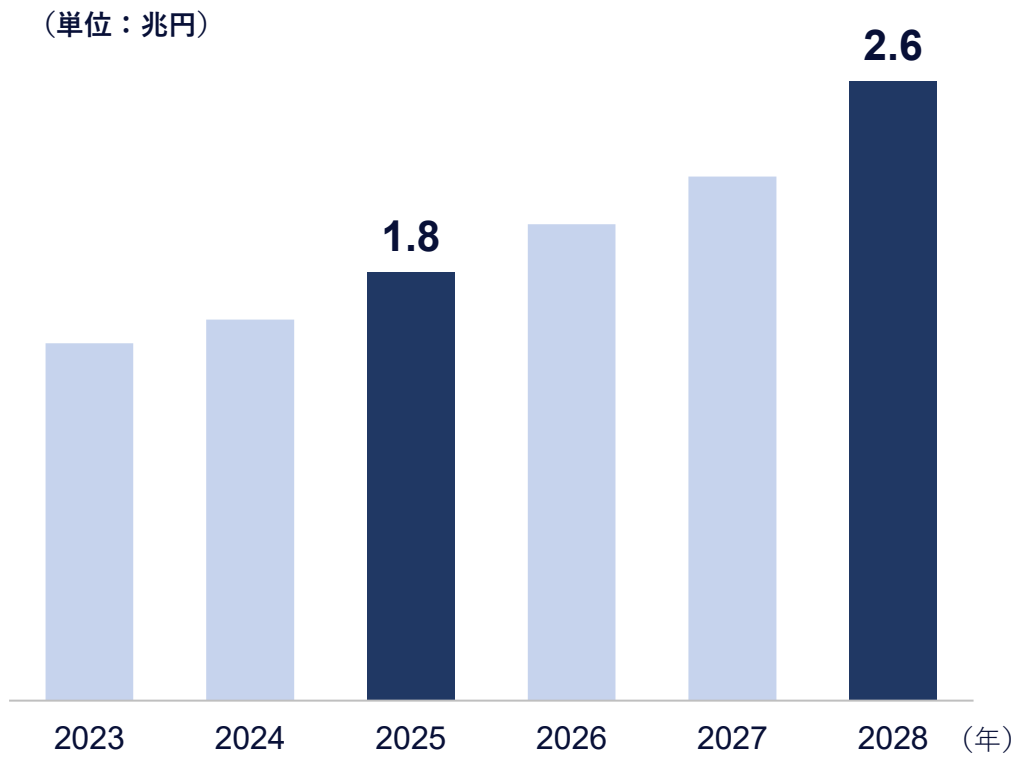
出典：Statista（2025年3月27日取得データ）

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

エッジAI市場

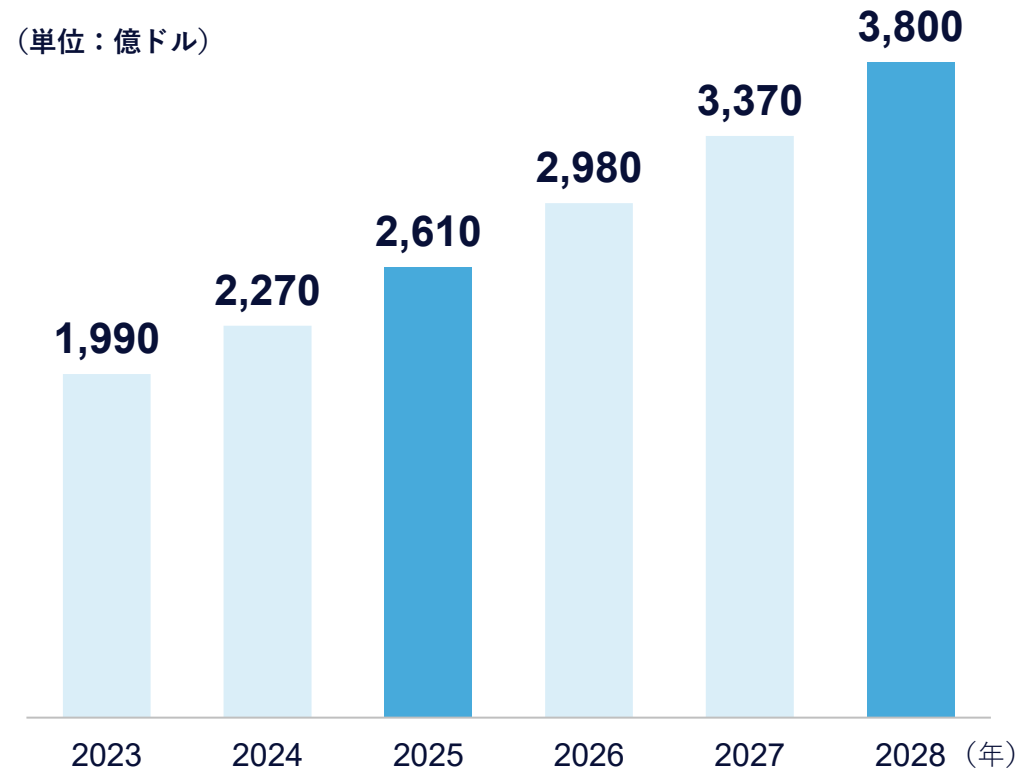
「フィジカルAI」はエッジ搭載へ拡張し、現場機器に即応する高速度の適応を実現、製造DXを前進させます。フィジカルAIの推進はエッジコンピューティング市場をさらに拡大する大きな可能性を秘めています。

国内エッジコンピューティングの市場規模



出典：IDC「国内市場におけるエッジコンピューティングへの支出額は、2025年に前年比12.9％増の1兆9千億円となり、2028年には約2兆6千億円に達すると予測～国内エッジインフラ市場予測を発表～」（2025年4月8日）
なお、2023年～2024年、2026年～2027年のデータは、実数値が公開されていないことから、出典元のグラフに基づき当社で推計値を入力しております。

世界のエッジコンピューティングの市場規模



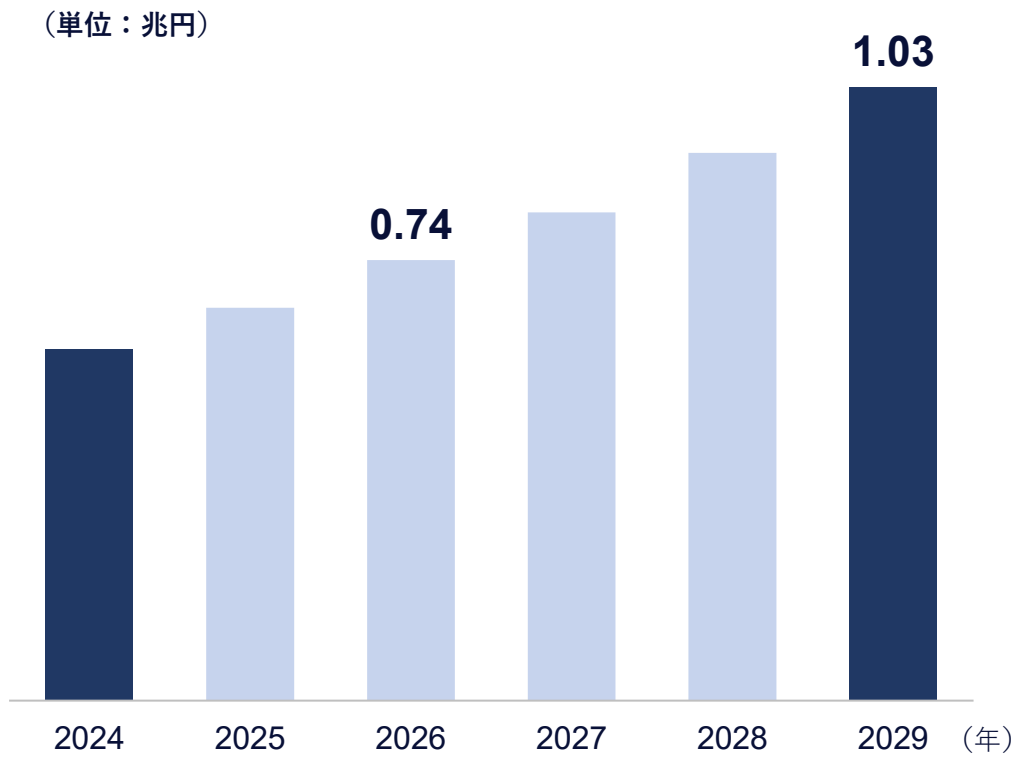
出典：IDC「Worldwide Edge Spending Guide 2025 V1」

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

セキュリティ市場

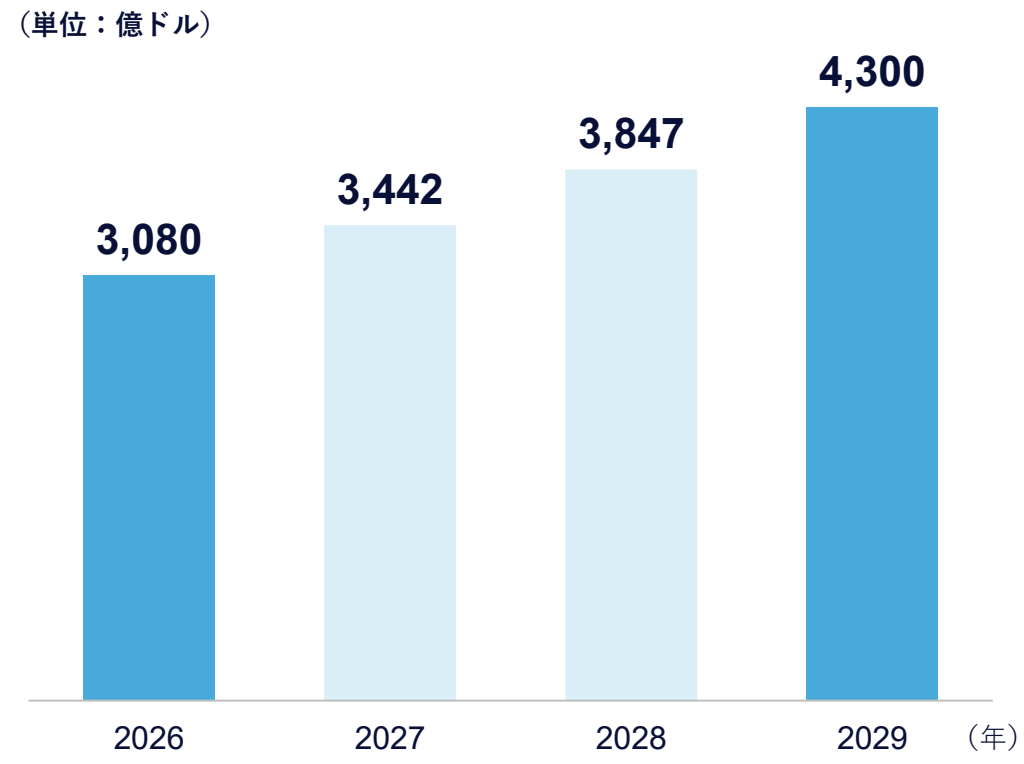
生成AI活用の拡大に伴いサイバー攻撃が急増する一方、AIを悪用した攻撃も高度化しており、企業の対策需要はかつてない規模で拡大しています。国内・世界ともにセキュリティ市場は二桁成長が続く見通しです。

国内セキュリティソフトウェア市場規模



出典：IDC「国内セキュリティソフトウェア市場は、2024年に前年比14.6%増の5,861億円となり、2029年には約1兆307億円に達すると予測～国内情報セキュリティ市場予測を発表～」（2025年5月27日）
なお、2025年～2028年のデータは、実数値が公開されていないことから、出典元の成長率に基づき当社で推計値を入力しております。

世界のセキュリティ市場規模



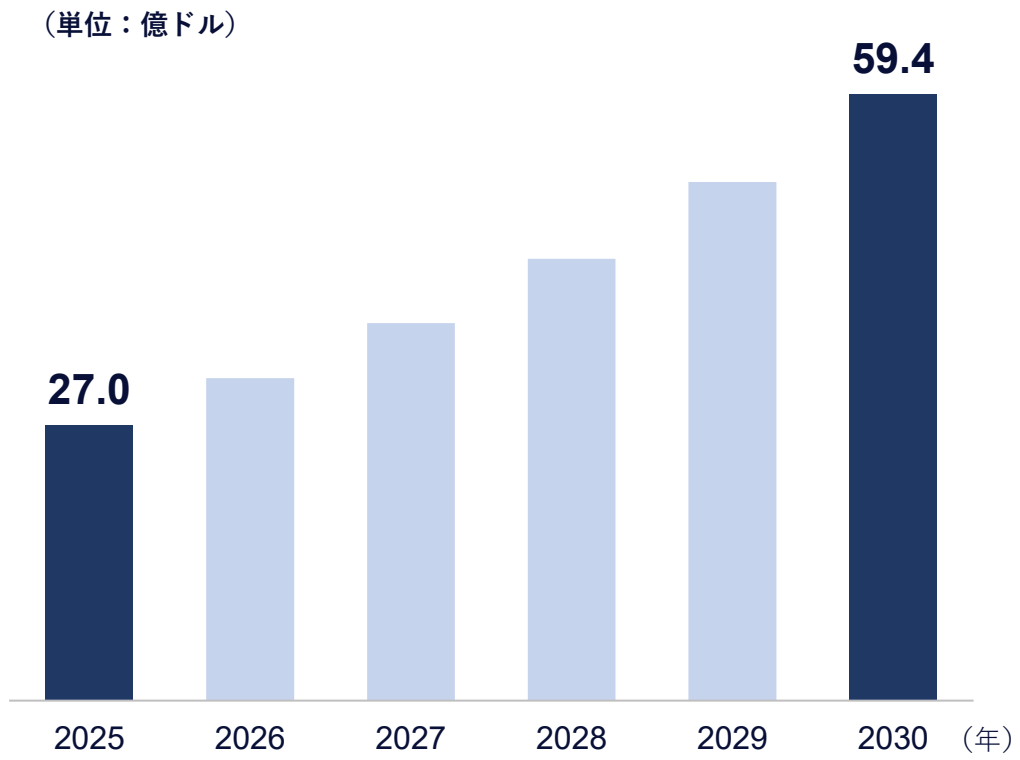
出典：IDC「Worldwide Security Spending Guide」（2026年3月3日発表）

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

自動車AI市場

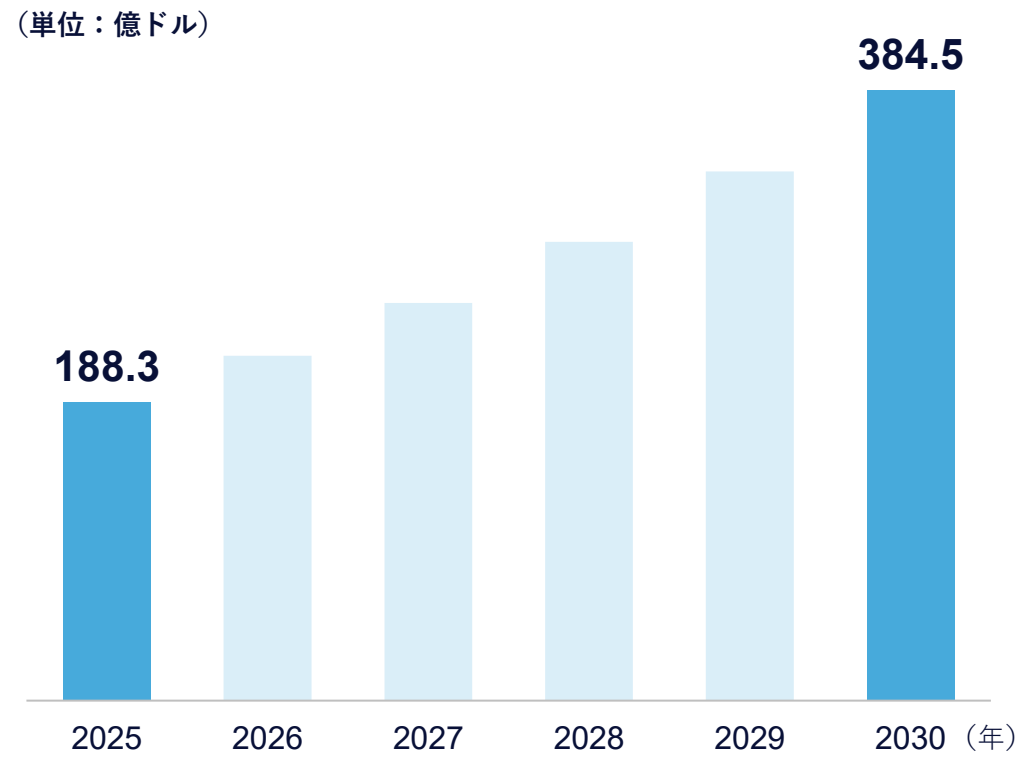
自動運転・先進運転支援（ADAS）や設計・製造領域へのAI活用を背景に、自動車AI市場は拡大が続く見通しです。国内市場は2030年に約59億ドルへ、年平均17.1%（世界は15.3%）と世界を上回るペースで成長すると予測されています。

国内自動車AI市場規模



出典：MarketsandMarkets「Japan Automotive AI Market」（2025年～2030年予測）
なお、両グラフとも2026年～2029年のデータは、実数値が公開されていないことから、出典元の成長率に基づき当社で推計値を入力しております。

世界の自動車AI市場規模



出典：MarketsandMarkets「Automotive AI Market」（2025年～2030年予測）

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

INDEX

01 | 会社概要

02 | 市場環境

03 | 競争優位性

04 | 成長戦略

05 | 財務情報

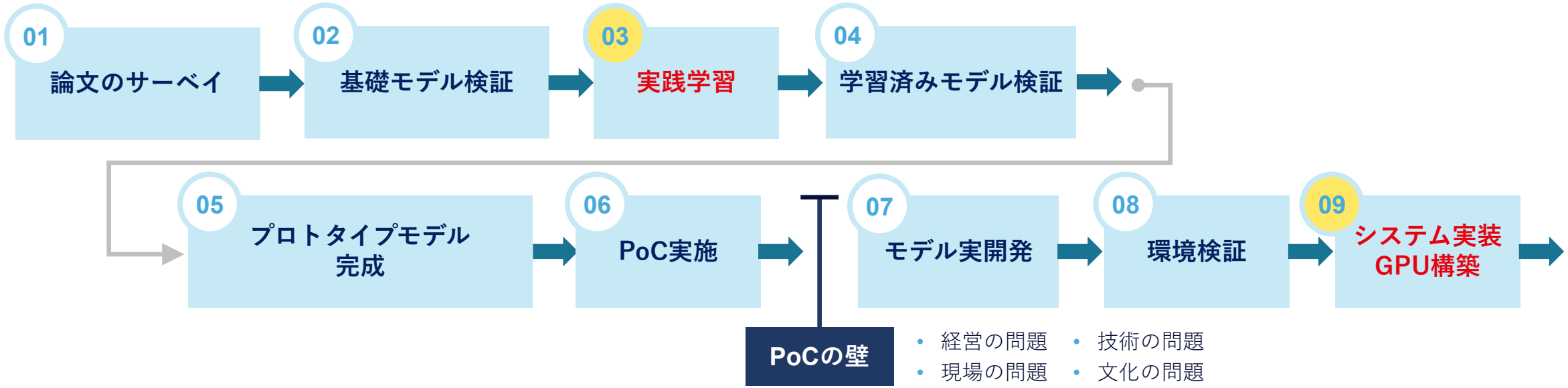
06 | Appendix

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

技術力と社会実装力

トリプルアイズのサービス「AIZE」は、すべて自社開発で構築。
同時に、AIの研究開発における論文のサーベイからモデルの実開発のみならず、顧客システムへの実装まで一貫して実施が可能

AIシステムの開発 | 一般的なAI開発プロセス



03 「実践学習」のデータアプローチの強さ

タスクに応じて統計や機械学習を使い分けるアプローチが強み。
特に囲碁AIで重要となるデータ解析や特徴量抽出に知見がある

09 AIを「システム実装」できる珍しさ

自社開発の「AIZE」は、顧客ニーズを起点としたマーケットインで開発。
更に、「GPUサーバー」等インフラ構築まで一気通貫でサービス対応

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

高い技術力を誇る人材と圧倒的な実績

AIプロフェッショナル DXエンジニア

人員数 **193名**

最先端AIの研究開発+ 顧客のDX支援を強力にサポート

UEC杯囲碁AI大会1位の研究開発ネットワークを活用し、優秀な人材の採用・育成にも力を入れる

世界大会	第 1 位
G検定合格者 ※1	総勢28名
中最上級エンジニア	153名

自動車設計エンジニア

人員数 **167名**

大手自動車メーカーの設計開発で40年超の実績

関与特許実績140件超。ハードウェア・ソフトウェアの両軸で技術を高める自動車設計のプロフェッショナル集団

大手自動車メーカーとの取引実績	40年超
関与特許実績	140件超
空調 トヨタ車体内 シート 豊田紡織内	シェア 1 位

GPUエンジニア

人員数 **8名**

高性能PCの導入～運用をトータル支援

高性能PCの設置から保守・運用まで一貫して対応できる、ハードウェアエンジニアとソフトウェアエンジニアを揃える

販売累計台数・全国シェア	3 年連続 全国 1 位
購入顧客数・全国シェア	3 年連続 全国 1 位
自社データセンター稼働顧客数・全国シェア	3 年連続 全国 1 位

※1：一般社団法人日本ディープラーニング協会が主催する検定。事業に活用できるAIの知識を検定試験する

* 東京商工リサーチ調べ。人員数情報は2026年10月時点

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

囲碁AIに裏打ちされた高い技術力

囲碁AIの研究開発で培った先端技術を核とした“挑戦するDNA”を有し、AIの未来を切り拓く技術力が強み。
囲碁AIがもたらしたイノベーションを原点に、AI開発の王道で磨いた高度な知見を基盤として、新たな価値創出と市場への貢献を加速させる

AIの未来を創ってきた、私たちのDNA

2025年ノーベル化学賞


朝日新聞 DIGITAL

トランプ再来 「闇バイト」犯罪 速報 朝刊 夕刊 連載 ランキ

トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸能

朝日新聞デジタル > 記事

「アルファ碁なくして、ノーベル賞なかった」 化学賞のハサビス氏、日本棋院を訪問

有料記事

2024年11月25日 5時00分

今年の ノーベル化学賞 に決まった英 グーグル ・ディープマインド最高経営責任者、デミス・ハサビス氏が２１日、東京・市ケ谷の 日本棋院 を訪れ、トップ棋士を超える囲碁ＡＩ「 アルファ碁 」を開発した意義を語った。

出展：https://www.asahi.com/articles/DA3S16091485.html

囲碁AI世界大会成績推移

開催時期	順位
2019年4月	4位
2019年12月	2位※1
2022年3月	6位※2
2023年11月	1位※3
2024年7月	1位※3

技術力の差が勝敗に現れる

囲碁の指し手選択数 10^{360}

将棋の局面変化 10^{220}

全宇宙の粒子数 10^{80}

地球の海岸の砂粒数 10^{23}

日本総人口 10^{8}

※1：共同開発プロジェクト「GLOBIS-AQZ」での成績
※2：2020～2021年は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、大会参加を見送っておりました。
※3：当社エンジニアの個人参加による成績です。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

高いエンジニア比率

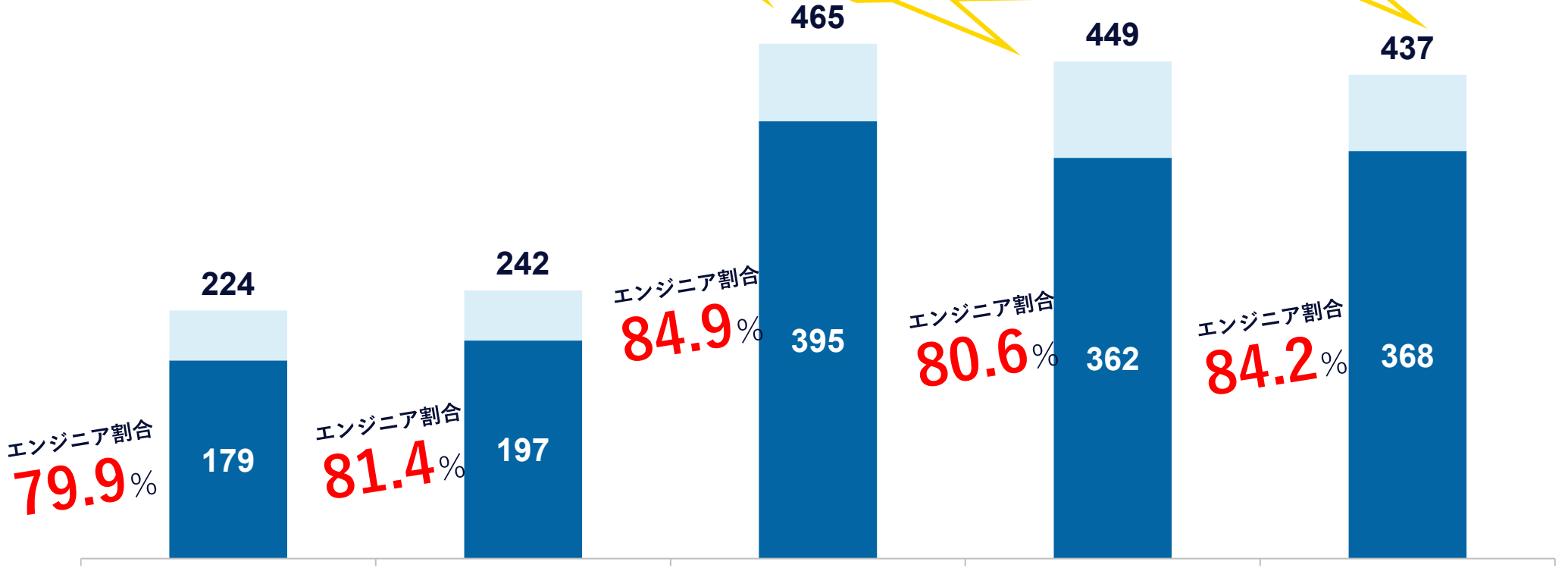
連結従業員数推移(人)

2023年9月：
ゼロフィールドグループイン

2024年7月：
BEXグループイン

エンジニアリングサブセグメントでの人員数の減少があったものの、1人当たり粗利は向上している。

高いエンジニア比率の維持と一人当たり粗利の更なる向上



	2022/8期	2023/8期	2024/8期	2025/8期	2026/8期
1人当たり粗利（千円）	3,041	2,389	3,170	3,857	4,347

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

INDEX

01 | 会社概要

02 | 市場環境

03 | 競争優位性

04 | 成長戦略

05 | 財務情報

06 | Appendix

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

3つの成長エンジン

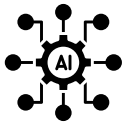
AI社会実装に向け、3つの戦略を推進。
単なるAIベンダーとしてのポジション確立ではなく、「社会課題を技術力で解決するSIパートナー」としてへの役割へシフト。また全社員のAIスキル向上していき　AIネイティブな組織へ変革していく。

① 顔認証・生体認証



利便性から
「公正・安全」へ

② AIインテグレーション



「現場実装」の徹底

③ 大学アライアンス



教育DX・
地方創生モデル

＋

AIネイティブな組織への変革

M&A戦略

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

① 顔認証・生体認証

本人性の厳格化が求められる領域に特化

当社製品は、勤怠・決済（所有認証）の領域においては既に一定程度普及済み。
これからは、スマホ・カードでは解決できない**「本人性の厳格化」**が求められる領域に特化することで、高単価かつ必須性の高い市場を獲得する。



具体的な注力領域

公平性の担保が求められる領域

- エンタメ（チケット）
- リテール（限定品）における不正転売・買占め防止

リスク管理が求められる領域

- Web試験での本人確認
- カスハラ対策
- 徘徊見守りなどのブラック/ホワイトリスト検知

当社の競争優位性

顔認証カスタマイズ実績

- カメラ、クラウド・オンプレ・スマホなど環境依存せず、API/SDKで柔軟に連携することが可能

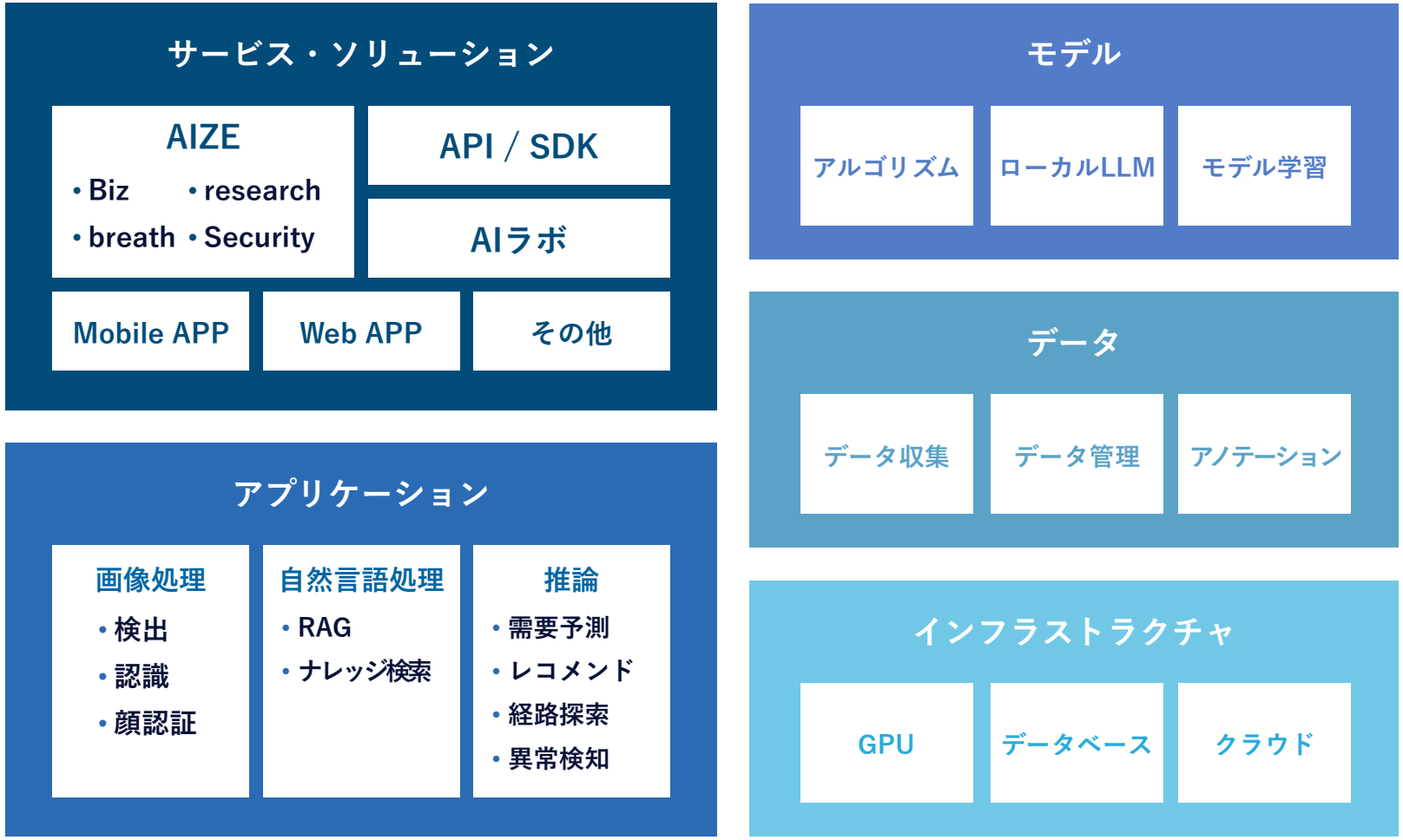
大量高速処理

- 数万人規模のイベントや商業施設でも遅延なく認証・判定することが可能

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AIプラットフォーム展開

トリプルアイズのAIの技術力と知見を活かして構築した独自のAIプラットフォーム基盤をベースに、自社プロダクトの拡大、他社サービス連携、AI案件のフックから大型システム案件受注につなげる戦略を推進していきます。



自社プロダクトの拡大

世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から誕生。
自社プロダクトの提供によって10万IDの運用実績をもつAIエンジン

他社サービス連携

API・SDKで他社SaaSサービスと連携し収益拡大。
自社AIプロダクトは月額利用料が高粗利で長期継続

AIフックから大型化

AIラボおよびオーダーメイドAI開発リード顧客からの大型システム開発受注・基幹システム開発受注

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

② AIインテグレーション

製造・印刷現場のDX推進

クラウド完結型のAIベンダーが苦手とする「エッジAI」と「フィジカルAI」を組み合わせることで、実益に直結するソリューションを提供していく。



具体的な注力領域

製造業

- 「自社専用生成AI」でナレッジ継承

印刷業

- 全数検品によるロス削減、製版業務効率化

新技術投資

- 工場自動化に向けたフィジカルAI研究開発

当社の競争優位性

圧倒的な課題解像度

- AI Lab顧客の80%が製造・印刷業。ドメイン知識が深く、「AIPoC」提案ではなくROI（人件費削減・歩留まり改善）を明確化した提案が可能。

日本産業の強みと連動

- 自動車、IP産業（漫画・アニメ）など日本の技術力が強い産業に密着。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AIラボの戦略的拡大

画像認識プラットフォーム「AIZE」を多業種へ展開し、リード創出を強化。「AIラボ」による顧客との共創・検証を通じて、
AIシステム開発や既存システムインテグレーションといった大型案件の獲得に繋げることで、顧客LTVの向上を目指す

企業課題と提供価値



AIの基礎知識を高めたい → AILab ジェネラリストからスペシャリストまで対応



課題解決方法を相談したい → AILab 要件定義から設計まで対応



開発リソースや環境が欲しい → AILab 環境構築から実証実験・実装まで対応

AIラボの体制



DXの最新情報サーベイ・AI論文サーベイ・案件実績が集約された
エンジニアチームを顧客のビジネス・サービスに活用

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

成長戦略 — 自動車領域へのシフト

生成AI浸透1〜2割の**空白地帯**を、BEX常駐×オンプレ画像認識で先行する。

自動車×AI — 巨大市場を面で獲る

トヨタ経済圏への足場

主要Tier1との新規取引開始予定。BEXへの出向・常駐で東海地区を深耕し、AI開発案件を受注開始。

生成AIの空白地帯

現場の浸透はCopilot中心でまだまだ浸透していない。業務特化AIはほぼ未導入

当社の勝ち筋

オンプレ制約×図面・画像データ。画像認識・オンプレ実装力と好相性

製品パイプライン

Copilot エージェント

図面生成AI×CAD

外観検査 画像認識AI

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

BEXグループイン2年 — 自動車設計DXの共創

AI・システム開発のトリプルアイズと40年超の自動車設計ノウハウを持つBEXが融合。単なる「**AIモジュール**」の提供にとどまらず、現場の全体性能に合わせて最適化する「**アライメント力**」を掛け合わせることで、製造業の設計現場への実効性あるAI実装を推進しています。

トリプルアイズ
最先端のAI構築技術・自社AI開発
囲碁AI由来の技術力／SI

×

BEX
自動車設計40年超・トヨタグループ
関与特許140件超の設計者集団

＝

自動車設計現場のDXを共創
機密環境を守りながら AIを製造現場へ実装

BEXグループイン後の2年間

2024.7 グループイン
トリプルアイズグループにジョイン

2024〜25 共同研究
PJ組成・階層別AI研修を開始

2026.3 第1フェーズ
設計自動化で年間約4,000時間削減

2026.4 第2フェーズ
セキュアなローカル生成AIを開発

2026.8〜 次世代設計へ
図面の検索・自動生成を構想

グループガバナンス強化

これら事業共創を支える組織基盤のガバナンス強化として、BEXの管理部門へTeamsを導入し**コミュニケーション迅速化**と**バックオフィス業務の効率化**を達成。さらに階層別AI研修の実施により全社的な**IT・AIリテラシーの底上げ**を実現しました。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AI×モノづくり：自動車設計DX推進

先端AI技術と設計ノウハウの融合による革新

AIプラットフォーム構築技術と、自動車設計の実務ナレッジを掛け合わせ、製造業の生産性を抜本的に向上させる。

1. 設計付帯業務の自動化

- **CAD自動化プログラム:** 3D CAD上の目視チェック、修正、集計などの定型業務をプログラムで自動化。
- **ヒューマンエラー排除:** 図面注記や規格の目視検証により、手戻りの主要因をITが肩代わり。
- **高付加価値化:** エンジニアが本来注力すべき「創造的な設計検討」にリソースを集中可能に。

年間見込み削減工数

4,000 時間(※)

2. セキュアな「ローカル生成AI」

- **機密情報の完全保護:** 外部未接続の「閉域網」で稼働。製造業の厳格な機密保持要件(NDA)を完全にクリア。
- **ナレッジの即時検索:** 膨大な技術文書や過去の要件定義書から、必要な情報をAIが瞬時に抽出・要約。
- **独自RAG技術:** 社内固有の設計ルールを、安全な環境で高精度に引き出すチャットボット。

次世代ナレッジ基盤

SECURE DX

NEXT STEP: 次世代設計プロセスへ

1. 定型業務自動化
2. ナレッジAI実装
3. 図面自動生成

※　自動車設計における付帯業務を自動で実行・補正するシステムにより、1プロジェクト（約12ヶ月）あたり約390時間の作業時間を削減しました。これを該当する複数プロジェクト（対象エンジニア約30名規模）の全体に換算すると、年間で約4,000 時間の工数削減が見込まれます。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

製造業におけるAI実装を加速する

AIを活用し技術的可能 ／ 現場にフィットする

AI実装実績 IZE Realize Customize Maximize TRIPLEIZE		現場の理解 BEX
AIの開発／実装の豊富な実績	強み	自動車業界特化、45年の技術蓄積
顔認証AIから生成AIまで、幅広い領域での開発・実装実績。アルゴリズムの設計から本番稼働まで、一気通貫の技術力を持つ。		業務系・制御系・インフラを横断できる守備範囲の広さ。自動車業界の厳しい要求を満たし続けた専門集団。
アルゴリズム構築・エッジ／クラウド実装	役割	トヨタグループの現場密着型パートナー
課題に対して最適なアルゴリズムを構築し、エッジ・クラウドを問わず実装まで担う技術実行部隊。		トヨタグループ各社のシステム開発・保守・運用を担い、発注者の業務フローを知り尽くす。
「どう技術で解決するか」豊富な手法	提供価値	要件定義から実装まで、責任の一元化
「何を作るか」ではなく「どう技術で解決するか」を問い続ける。現場の課題に対し、最短・最適な技術手段を提示し、届ける。		現場の業務を知り尽くしているからこそ、上流から実装まで一気通貫で責任を持つ。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

③ 大学のアライアンス強化

産官学連携のハブへ

大学の研究シーズをシステム化し、自治体・公共へ展開。
優秀なAI人材のリクルーティング・エコシステムも確立。



具体的な注力領域

社会実装パイプライン

- 研究を自治体へ。教育委員会等とのパイプを作り、他商材へクロスセル。

採用ルート強化

- 共同研究を通じた学生エンジニアとの接点強化。

離島・僻地の教育モデル

- 北海道大学と連携。AI/GPUで対面以上の教育環境を構築。

当社の競争優位性

研究開発実装力

- 囲碁AIや顔認証で培った力で、学術理論を即座に「社会実装」できるエンジニア力。

日本産業の強みと連動

- 大学・自治体との技術顧問契約による知見の収益化モデル。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

産学連携とAI人材育成の実績

千葉大学とAI教育・地域DX推進に関する包括連携協定を締結。代表片渕らによる集中講義は全学部・全学年から延べ630名が受講。
当社のAI社会実装力と大学のアカデミアの研究・人材を融合させ、「研究」「教育」「人材活用」の3本柱で実効的な育成を推進

千葉大学 集中講義概要 「AI共創とデジタルデザイン基礎演習」

全学部・全学年を対象とする正規科目の集中講義。代表の片渕博哉らが教壇に立ち、画像認識や生成AIの活用、UI/UX設計などの実務スキルを演習形式で指導。

講座受講者数

延べ 630 名※1

総講義時間

1,300 分超※2

他主要教育機関との連携実績

北海道大学｜学術コンサルティング契約

AIやVR技術を応用した「教育DXモデル」共同構築により、過疎地域・離島の教育格差を是正。

HAL東京｜特別講義（全8回）の開催

現役エンジニア（同校卒業生）が登壇し、現場で求められる「AI駆動型開発」の実務スキルを指導。

Realize Customize Maximize TRIPLEIZE × CHIBA UNIVERSITY



2026年5月1日　西千葉キャンパスにて包括的連携協力に関する協定を正式締結

メディア掲載

千葉テレビ AI時代の人材育成の取り組みが放送

朝日新聞 実践的AI教育や手話AIの共同研究が掲載

※1：受講実数42名が全15回の講義に参加した延べ人数 ※2：90分授業×全15回（計1,350分）の実績

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

GPUサーバーによるAI開発支援

ゼロフィールドは、AI向けGPUサーバー需要の拡大を背景に、最適なサーバーソリューション「GPU Server for AI」を展開。
生成AIや大規模言語モデルなど多様な用途に応じたインフラ環境を提案し、高性能なGPUと柔軟なサーバー運用でAI開発の加速に貢献する

AIのインフラとなるGPUサーバー



◀ 事業者向け生成AI用GPUサーバー
【NVIDIA H200を最大8GPU搭載可能
Supermicro社製 】





▲ AI開発者向けワークステーション
【最大4GPU搭載可能　デスクトップからラックマウントまで】

AIシステムやAI開発のパートナーとして



GPUサーバーの提案

生成AIの利用拡大に伴い、
ニーズが増えている
GPUサーバーの提案も行う。
AI開発からGPUサーバーの運用・
データセンターの構築まで
トータルサポートが特徴。

AI開発事業者との提携

GPUサーバーの導入を広げるべく、
一般社団法人生成AI活用普及協会(GUGA)に
シニアパートナーとして加入。
AIサービス事業者・AI開発事業者・AI導入支援事業者
との連携を進め、AIインフラの提供を広げる

Association to Generalize Utilization of Generative AI
シニアパートナー
Senior Partner

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

ゼロフィールドの新体制と売却に向けて

ゼロフィールドは**新体制へ移行**。AI向けGPUサーバー中心への転換が完了し、**損益が改善**

新体制

2026年9月7日、佐藤仁氏が代表取締役に就任

- 大手総合商社を経て、IT企業(上場企業グループ)の代表取締役社長として事業拡大を牽引
- 2026年4月に参画し、営業・事業運営・組織マネジメントを強化。業績回復施策で成果
- 前代表取締役の平嶋遥介氏は顧問として、技術面で支援
- **株式譲渡の方針に変更なし**

事業構造の転換

マイニングマシン サーバー運用事業
収束に近づく

→

AI向けGPUサーバー 販売・運用
メイン事業へ転換完了

→

損益が改善
通期で黒字に転換

損益改善の実績(2026年8月期 通期)

営業損益	売上総利益率	販売費及び一般管理費	3Q・4Q営業利益
△577 → 10	50.2 → 62.7%	835 → 590	63
百万円(前期→当期)	+12.5pt	百万円(△29.3%)	百万円 (棚卸資産評価損29百万円控除後)

※金額は百万円未満切り捨て。2025年8月期は棚卸資産評価損等を含む。新体制は2026年9月7日公表「連結子会社 株式会社ゼロフィールドの代表取締役異動および今後の運営方針に関するお知らせ」に基づく。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

技術者の育成　ロードマップ

当社独自のAIエンジニア育成研修「AT20」を2026年度グループ総計 212名が受講し 合格者が累計 200名を突破。グループ全体のAIリテラシーUpを推進中。今後のIT開発をリードしていくAI駆動開発リーダーを2028年までに100名育成していく。



GE：AIジェネラリスト
Ld ：AI駆動開発リーダー

現在

組織レベル	2025年8月期	2026年8月期	2027年8月期	2028年8月期
	AI試行段階	**業務へのAI統合**	**AI前提の業務設計**	**AIによる戦略的改革**
	● 組織内でAIの利用が一部始まってはいるが、利用ツール目的がバラバラで、業務への影響は限定的 ● AI活用が「個人」から「チーム」への取り組みへと進化中	● 業務プロセスにAIが組み込れ、日常的に活用される ● 業務効率化や品質向上など、具体的な成果が出始める ● **AI活用が「業務改善の手段」**として定着	● 業務やプロダクトが「AIを前提」に設計されている ● KPIや評価指標もAI活用を前提に定義されている ● AIが業務の中心に位置づけられ、組織の競争力に直結	● AIを軸にした事業変革や新規事業が推進されている ● 組織文化としてAI活用が根付き、**全社員がAIリテラシーを持つ** ● 「AIだからこそ可能な戦略」が実行されている状態

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

技術者の育成　AT20

▶AT20%
Let's challenge advanced technology

株式会社トリプルアイズでは最先端技術（Advanced technology）に携わる社員の比率を**20%以上**に引き上げるために独自の教育プログラムを実施していますが、この教育プログラムを、教育サービスとして外部にも提供しております。

サポーター制度

AIエンジニアによる
マンツーマンのサポート

選べる4つのコース

職種、目的、スキルレベルなどに
合わせたコース選択が可能

- 入門コース
- Python基礎コース
- AIエンジニア初級コース
- AIエンジニア中級コース
- AI駆動開発コース

通信教育制度

時間や場所を選ばず、
自身のペースで学習できます。

総受講者数※1　625名

総受講社数※2　50社超

1社あたり平均受講者数　8名

上位コース受講希望者数※3　310名

※1：入門コース200名／Python基礎コース130名／AIエンジニア初級コース80名／AIエンジニア中級コース60名/AI駆動開発コース25名
※2：個人事業主様会む。
※3：約1/2の方が上位コース受講も選択頂いております。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

技術者の育成　AI駆動開発リーダー

従来のシステム開発フローの中で、ヒトで対応しなければならない領域、
AIに代替できる領域を見極め、技術者の育成・リスキリングを推進していく。

ヒト作業領域

AI作業領域



AI駆動開発リーダー

AI駆動開発
リーディング

要件定義 | 設計 | 開発 | テスト | リリース | 運用保守

業務知識

非機能要件
明確化

ユーザ体験設計

ROI試算

AI駆動開発ツール(Cursor、Devin、Claude Code)

AIアップデート

DB設計

良質なサービス実現に向けては、
DB設計が重要!!

非機能要件
脆弱性テスト

保守性の高いコード
生成は現状難しい

効果検証

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

IT開発環境の劇的変化と「エンジニアシフト」の壁

生成AI・AIエージェントの普及により、従来の**「人月商売」や「SaaS」の前提が根本から崩壊**

01　AIエージェントがもたらす開発環境の地殻変動

SaaSビジネスの変容
生成AIで「ノーコード自前構築」が容易化
既製品SaaS→自社専用AIアプリ構築へ

人月・SESビジネスの崩壊
AI駆動開発(Cursor／Devin等)で工数が激減
「工数を売る」モデルからの転換が不可避

開発環境が変わる　→　仕事の価値が変わる　→　求められる人材が変わる

02　コンサルティング領域からの変化と、エンジニアリング領域からの変化

コンサルタント
課題を聞く人　→　**AIで解決まで設計する人**

エンジニア
仕様通りにつくる人　→　**課題を発見し、AIで解決する人**

コンサルタントとエンジニアの境界が溶け、両者を横断する「FDE型人材」が必要に

03　大手・競合各社も「顧客現場の課題解決」へシフト

外資SaaS大手	ネット系大手	テスト・品質保証大手	大手SIer	大手ITベンダー
AIエージェントで業務を自律化	AI駆動開発を全社で推進	要件定義・開発・テストへAI活用	現場・コンサル・技術の「三位一体」で伴走	現場作業支援などAIエージェントを展開

04　既存エンジニアシフトに立ちはだかる「3つの壁」

①　技術の壁
AI成果物の安全性・非機能要件をQAできない

②　意識の壁
「指示待ち・人月売り思考」から脱却できない

③　現場(ドメイン)の壁
自動車・製造業などの泥臭い現場知識が不足

★ 当社の解：独自教育基盤「AT20」により、業界に先駆けてエンジニアのFDE化を推進

※各社の公開情報を基に編集部作成(2026年)

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

部門最適から、全体最適へ

部門の壁を壊し、AIで会社をつなぎ直す。

単純な作業時間ではなく、多くの部署がかかわる業務全体と「かかわる人」まで最適化

大企業に多い取り組み:部門最適

部署A ✓効率化 → 受け渡し確認 → 部署B ✓効率化 → 受け渡し確認 → 部署C ✓効率化

各部署は効率化しても、部署間の「つなぎ目」に人と手間が残る

当社の取り組み:全体最適

部署A → 部署B → 部署C

つなぎ目をなくし、かかわる部署・人の数まで減らす(人員削減まで見込む)

全体最適を支える仕組み

AIレイヤ
生成AIが業務をまたいで
検索・分析・定型作業を実行
少ない人数で回る体制へ(省人化)

経理・財務	予算・PJ管理	資産管理
IT資産・契約	営業・請求	他業務へ拡張

共通データ基盤
業務データの一元化・部署間連携
社員・稟議・予算などのマスタを共通化し、全社で活用

1部署の「何時間削減」ではなく、部署のつなぎ目から変える

大企業が部門最適で止まる領域を、全社最適で実装・運用

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AI時代を切り拓く

私たちトリプルアイズは『AIと共に、ビジネスを変革していきます』。
テクノロジーだけでなく、組織文化としてのAI活用を推進していきます。

社員全員が、AIネイティブな組織へ。

新たな価値創造・事業成長・社会実装へ向けた挑戦を、これからも全力で推進していきます。
生成AIは単なるツールではなく、私たちのビジネスと社会を変革する原動力です。
この時代の波に乗り、未来を共に創造していきます。

具体的に取り組むこと



人材育成

AI人材の育成と組織全体のスキルアップ



技術革新

最先端AI技術の積極的な導入と開発



社会貢献

AIを通じた社会課題の解決への貢献

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

成長戦略 — 短期・中期

短期（2027年8月期）　— 粗利を積み上げる3つの打ち手

AIインテグレーション

- 提案力強化による単価アップ
- 商流改善によるプライム案件を拡大
- AI案件への人員シフト

粗利　755　→　909百万円
26年8月期　→　27年8月期

AIプロダクト

- 大手SaaS代表経験者が参画し、パートナー戦略を再構築
- エッジ、セキュリティ領域への拡大
- 上記によりARR142百万円→161百万円に拡大見込(13%増)

粗利　103　→　108百万円
26年8月期　→　27年8月期

エンジニアリング

- 技術承継プロジェクト進行
- 新卒・中途採用を強化
- ボトムアップでの活動を強化
- 東海地区での営業活動強化

粗利　425　→　521百万円
26年8月期　→　27年8月期

足元の業績は、さらに伸長

中期（2028年8月期以降）　— 人員数に縛られない成長へ

- AIプロダクト以外は労働集約型事業。人員数が成長の上限になる
- BEXと自動車設計領域の新規AIプロダクトを共同開発中
- サブスクモデルで、2028年8月期以降の事業化を目指す

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

2026年8月期　成長戦略振り返り

① **顔認証・生体認証**	● 「アルろく for LINE WORKS」の利用ID数が直近1年で501%増、LINE WORKS連携で導入が拡大 ● 顔認証AIがクロスキャット「CC-BizMate」と連携開始。AI顔認証による打刻で不正を防止 ● エッジ顔認証×MFAを軸にセキュリティ領域へ展開、2026年10月にサイバーセキュリティ室を新設
② **AIインテグレーション**	● AIソリューション事業は通期で過去最高の売上4,822百万円・営業利益159百万円を計上 ● AIラボ・コンサル売上は4四半期連続増収、前期比2倍以上の86百万円(4Q)に拡大 ● PoC→本開発→次フェーズへ連続受注するモデルが定着、プライム案件の受注も拡大 ● BEXとの自動車設計DX共創で年間約4,000時間削減、自動車向けローカル生成AIを開発
③ **大学アライアンス**	● 千葉大学と包括連携協定を締結、全学部対象の集中講義に延べ630名が受講 ● 北海道大学と学術コンサルティング契約、AI/VRで教育DXモデルを共同構築 ● HAL東京で現役エンジニアが特別講義（全8回）を開催、AI人材との接点を強化 ● 千葉テレビ・朝日新聞など有力メディアにも取り上げられ、取り組みが社会的に認知

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

M&A戦略の背景

東証グロース市場の上場維持基準として、2030年までに時価総額100億円の基準が追加。
東証の資料においても、高い成長を目指した経営の実現に向けて、M&Aによる成長戦略も積極的に検討すべきであることが提言された。

東証の提言
(資料抜粋　P8）

- 投資家の期待とギャップがある経営者のマインドの例として、「成長が停滞しているので、**従来の延長線での拡大路線**を目指す」など
- そうではなく、実際のグロース上場企業に対する投資家の声は以下の通り。「M&Aなどのインオーガニックな成長戦略も含めて、成長戦略を再構築してほしい」、「大きくない市場の中で多くのスタートアップがパイを奪い合っているケースがあるが、それでは単独での成長に限界がある。自社単独で成長を目指すだけではなく、**他社との提携やＭ＆Ａなど、インオーガニックな成長戦略も含めて検討すべき** 」

当社のスタンス

- 600社超のグロース市場の中で、100億基準を優に超える、**非連続な成長を実現するであろうという期待値に応えられる経営を目指す**
- 上場後実施した2件のM&AのDD、PMIの経験値を今後も活用、深化させる
- 国際会計基準導入により、他社に先んじた体制整備
- **ただし、件数ありきのM&Aは想定しておらず、次ページに記載の戦略概要に沿う見極めを行う**ことを重視

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

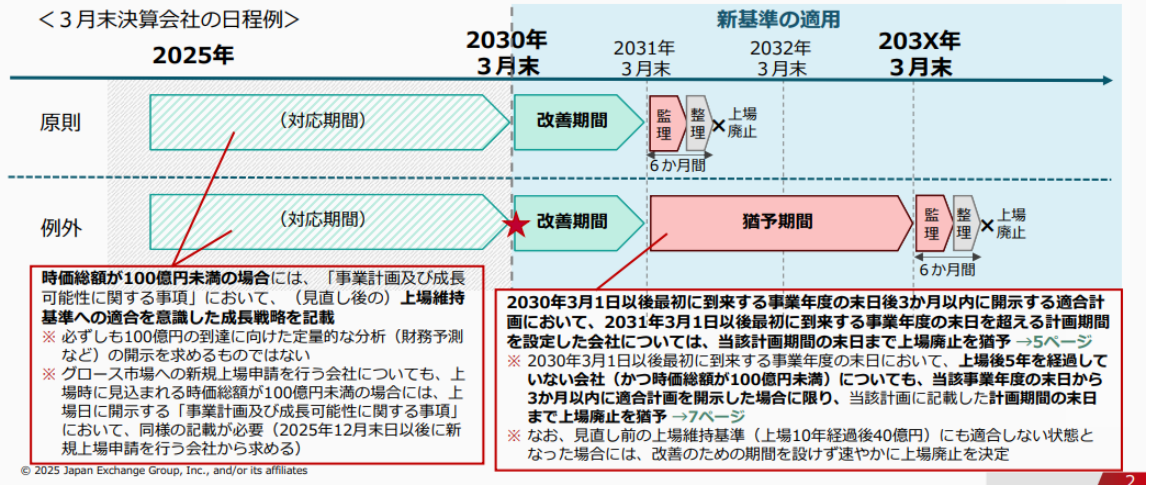
M&A戦略の背景

2030年からグロース市場の上場維持基準が見直される中、企業が社会に大きな影響を与える存在へ進化するためには、事業規模の拡大が鍵となります。その実現に向け、M&A戦略は今後も不可欠な成長ドライバーです。

グロース市場の上場維持基準の見直し

JPX

- **上場維持基準を、**「上場**５年**経過後　時価総額**１００億円**以上」へと見直し
  （現行：　上場**１０年**経過後　時価総額**４０億円**以上）
- **２０３０年３月１日以後最初に到来する事業年度の末日から適用**
  - １年間の改善期間内に基準に適合しなかったときは、監理・整理銘柄指定期間を経て上場廃止
  - ただし、**追加期間を設けて基準への適合を目指す計画を開示した場合には、当該計画に記載した計画期間の間、例外的に上場を可能とする（計画期間の期限は定めない）**



時価総額が100億円未満の場合には、「事業計画及び成長可能性に関する事項」において、（見直し後の）**上場維持基準への適合を意識した成長戦略を記載**
※ 必ずしも100億円の到達に向けた定量的な分析（財務予測など）の開示を求めるものではない
※ グロース市場への新規上場申請を行う会社についても、上場時に見込まれる時価総額が100億円未満の場合には、上場日に開示する「事業計画及び成長可能性に関する事項」において、同様の記載が必要（2025年12月末日以後に新規上場申請を行う会社から求める）

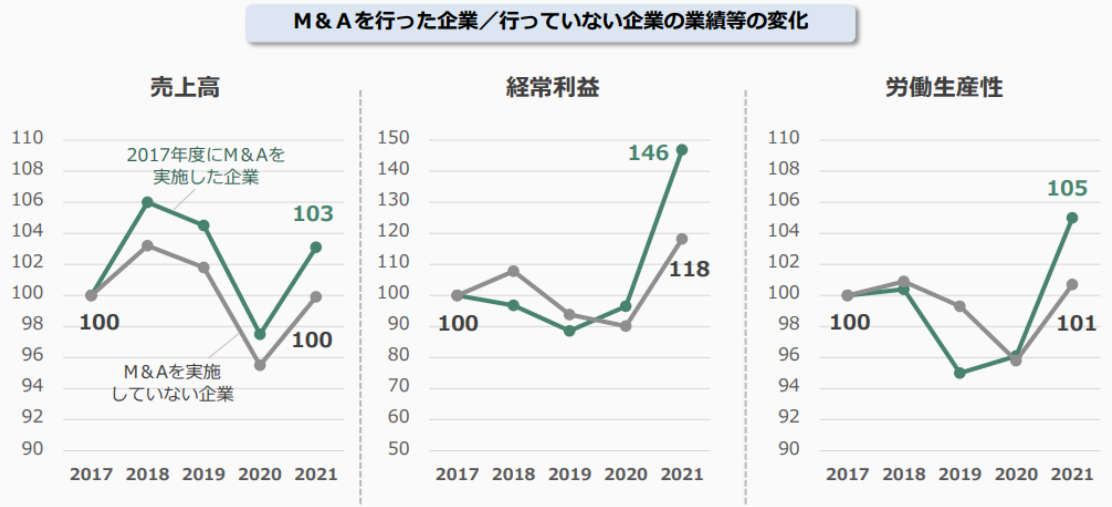
2030年3月1日以後最初に到来する事業年度の末日後3か月以内に開示する適合計画において、2031年3月1日以後最初に到来する事業年度の末日を超える計画期間を設定した会社については、当該計画期間の末日まで上場廃止を猶予 →5ページ
※ 2030年3月1日以後最初に到来する事業年度の末日において、**上場後5年を経過していない会社（かつ時価総額が100億円未満）についても、当該事業年度の末日から3か月以内に適合計画を開示した場合に限り、**当該計画に記載した**計画期間の末日まで上場廃止を猶予** →7ページ
※ なお、見直し前の上場維持基準（上場10年経過後40億円）にも適合しない状態となった場合には、改善のための期間を設けず速やかに上場廃止を決定

© 2025 Japan Exchange Group, Inc., and/or its affiliates

※ グロース市場の上場維持基準の 見直し等の概要.pdf　から抜粋

参考：M＆Aの成長への寄与

- M＆Aを実施した企業は、実施していない企業と比べ、売上高、経常利益、労働生産性の伸び率が大きいことを示すデータも存在



注：中小企業庁「事業承継・M&Aに関する現状分析と今後の取組の方向性について」（2024年6月28日）をもとに東証作成
注：2017年度において中小企業基本法上の中小企業に該当する企業を対象とし、2017年度の数値を100としたときの変化をグラフ化

© 2024 Japan Exchange Group, Inc., and/or its affiliates

※グロース市場における今後の対応 - 日本取引所グループ　から抜粋

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

M&A戦略の概要

01 適切なバリュエーションでのM&A	• ターゲットはEBITDA倍率4倍～5倍前後
02 AIソリューション事業を基盤としたシナジー	• AIサービス、AI開発、ITコンサルも含めたAI周辺事業領域のM&A • 独自開発AIの共有によるシナジー創出及びこれによる対象企業のバリューアップ
03 自由度の高い資本政策	• グループインした役員を中心にインセンティブを過去実施
04 当社グループへの資本参画によるベクトル合わせ	• M&Aと同時にファウンダーに当社グループの第三者割当増資を実施、当社グループ価値向上を当社とともに目指す

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

INDEX

01 | 会社概要

02 | 市場環境

03 | 競争優位性

04 | 成長戦略

05 | 財務情報

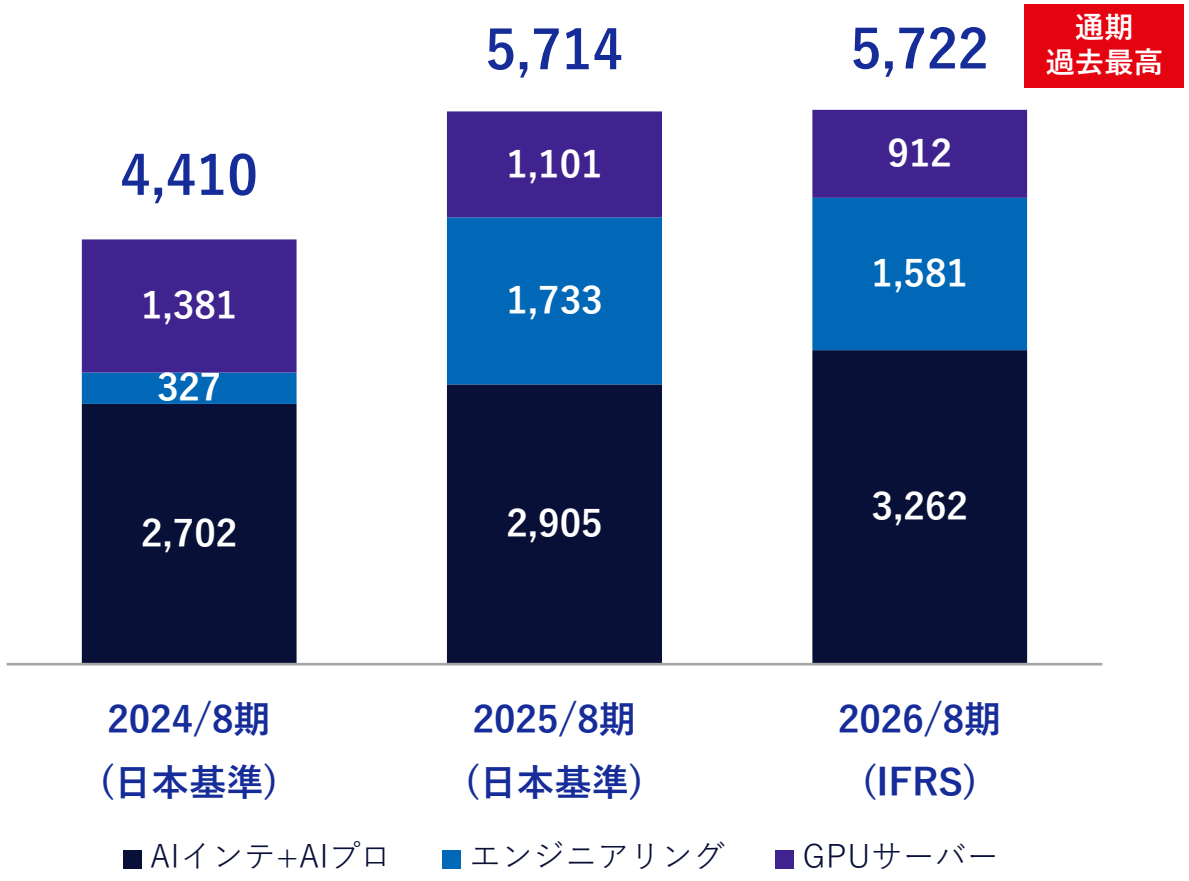
06 | Appendix

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

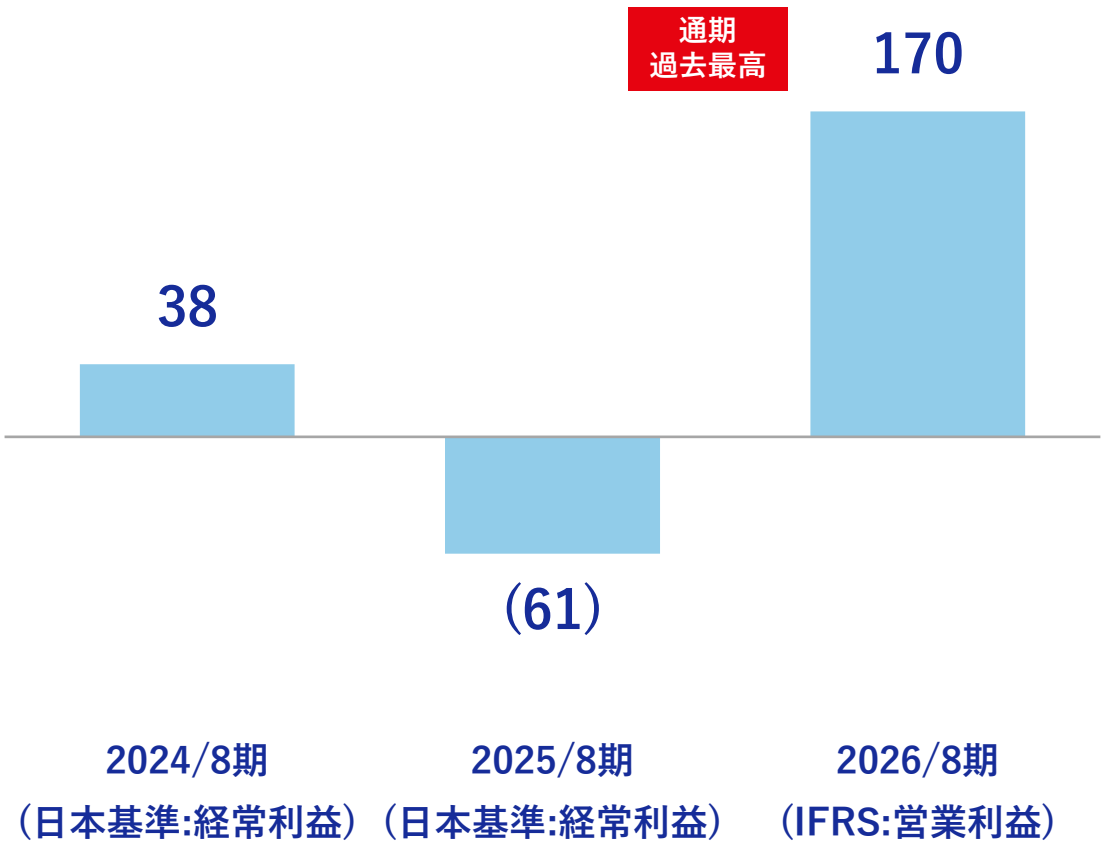
当期は業績が回復し、復活

利益体質は前期比で大きく改善

売上高 （単位：百万円）



営業利益 （単位：百万円）



※「AIインテ+AIプロ」「エンジニアリング」「GPUサーバー」の売上高合計と連結売上高との差異は連結消去によるものであります

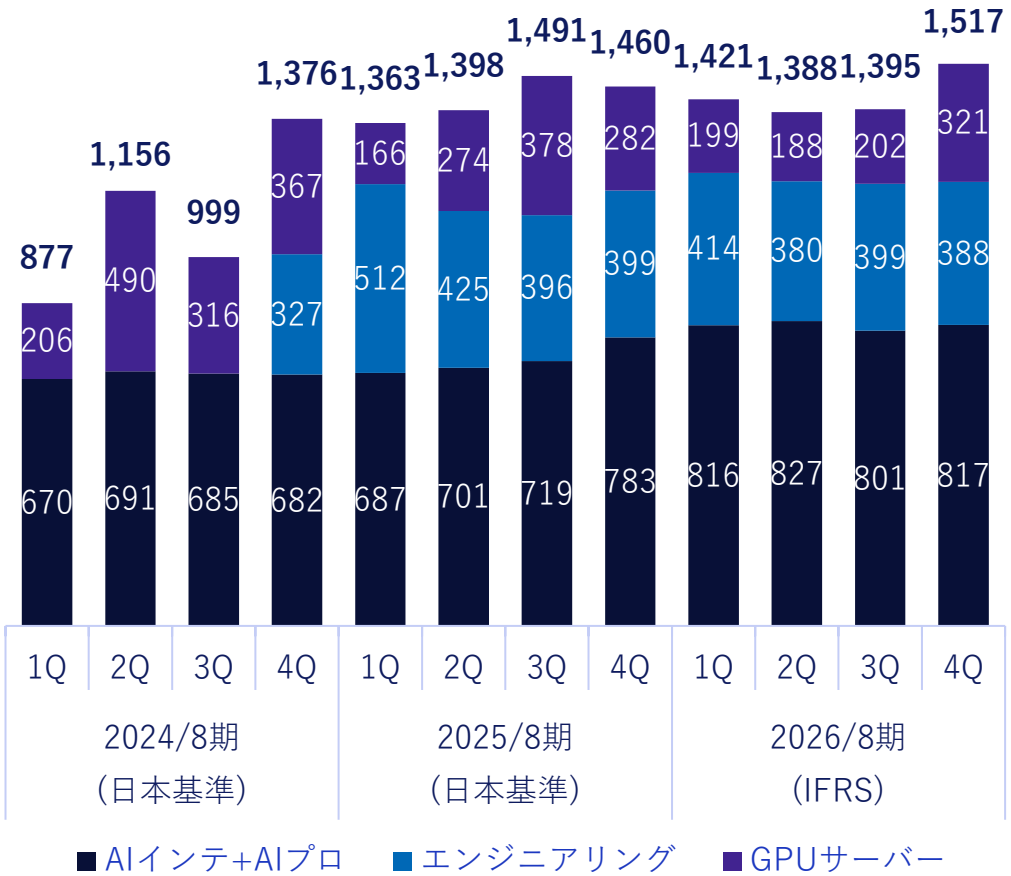
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

連結業績ハイライト①

連結営業利益は**通期で170百万円の黒字に転換**(前期実績△522百万円)。**AIソリューション事業は通期で159百万円の営業利益**を計上し、事業を牽引。GPUサーバー事業も通期で**10百万円の黒字に転換**。

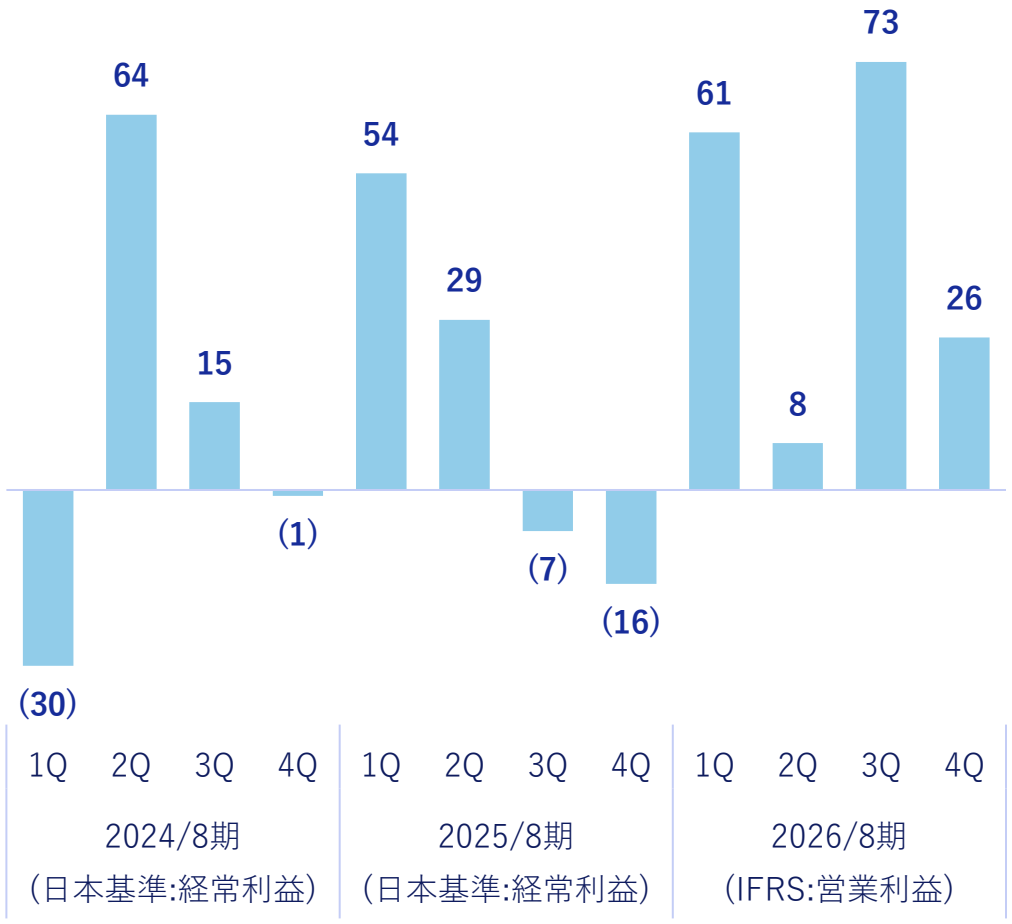
売上高

(単位:百万円)



経常利益/営業利益

(単位:百万円)



※「AIソリューション事業」「GPUサーバー」の売上高合計と連結売上高との差異は連結消去によるものであります

※これまでは日本基準の経常利益をKPIとして重視しており、26年8月期からはIFRSは経常利益という概念が無いため営業利益を並べて表示しております

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

連結業績ハイライト②

売上収益

通期過去最高

5,722百万円

（前期比：101.0%）

営業利益

通期過去最高

170百万円

（前期実績：△522百万円）※

当期純利益

100百万円

（前期実績：△467百万円）

連結業績

- AIソリューション事業が通期を牽引。**GPUサーバー事業も通期で黒字転換**
- **営業利益は4Q会計期間で26百万円、通期では170百万円で着地**
- 4Q会計期間に、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額(益)**21百万円**を計上

AIソリューション

- **通期売上4,822百万円、通期営業利益159百万円で着地**
- 「AIインテグレーション」における生成AI関連の開発需要増に伴うAIラボ契約AI開発契約拡大、プライム案件の受注拡大などが売上及び利益拡大に寄与。4Q会計期間は決算賞与の追加計上(33百万円)により小幅の営業損失(△12百万円)となったが、通期では過去最高水準の営業利益を計上
- 「エンジニアリング」においては、人員減が収束し案件増により請負工数が増加、**期中は順調に業績が進捗**。中途5名が入社済、2027年4月に新卒16名入社予定。BEX出向・常駐による東海地区営業強化で**製造業AI開発案件を受注**、自動車設計AI業務効率化ソフトの開発も進展

GPUサーバー

- **特定代理店との協業拡大によりAI開発用途向けGPUサーバーの販売が進捗**し、また、広告費などの調整により販管費が減少し、**4Q会計期間で営業利益39百万円を計上、通期でも10百万円の黒字に転換。**
- 台湾企業から購入した在庫の不備にかかる未回収債権について回収遅延が生じたため、貸倒引当金繰入額**38百万円**を金融費用に計上

※GPUサーバー事業の在庫評価損の特別損失(日本基準) 319百万円が、IFRS適用に伴う表示組替により営業損失に含まれております

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

事業別前期比較

AIソリューション事業のうちAIインテグレーション+AIプロダクトは、事業好調継続により売上前期比112.8%、エンジニアリングは前期比人員減のため売上前期比90.0%。**営業利益については前期比290.0%で着地**し、**通期では過去最高の売上高及び営業利益で着地**。GPUサーバー事業については、 AI開発用途向けGPUサーバーの販売が進捗し、粗利率が62.7%に向上(前期50.2%)し、通期で黒字に転換

（単位：百万円）	AIソリューション事業			GPUサーバー事業		
	2025年8月期 実績 (IFRS)	2026年8月期 実績 (IFRS)	前期比	2025年8月期 実績 (IFRS)	2026年8月期 実績 (IFRS)	前期比
売上高	4,626	通期過去最高 **4,822**	**104.2%**	1,052	**912**	**86.7%**
AIインテグレーション+AIプロダクト	2,891	**3,262**	**112.8%**			
エンジニアリング	1,756	**1,581**	**90.0%**			
売上総利益	1,194	**1,339**	**112.2%**	527	**571**	**108.4%**
営業利益	54	通期過去最高 **159**	**290.0%**	△577	**10**	**－**

※ 2025年8月期の数値はIFRS組替後の数値を記載しております

※ AIソリューション事業におけるサブセグメントの売上高合計とAIソリューション事業全体の売上高との差異は連結消去によるものであります

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

セグメント別サマリー

（単位：百万円）

	2023年8月期（実績）	2024年8月期（実績）	2025年8月期（実績）	2026年8月期（実績）
AIソリューション				
AIインテグレーション・AIプロダクト	2,346	2,702	2,905	3,262
エンジニアリング（BEX）	-	327 (2ヶ月分)	1,733	1,581
GPUサーバー（ゼロフィールド）	-	1,381	1,101	912
セグメント間取引	-	-	25	33
連結売上高	2,346	4,410	5,714	5,722

AIインテグレーション・プロダクト

主に以下を背景に、前期比+12.3%の増収。

- 生成AIの普及を追い風としたAI関連開発売上の成長
- AI顔認証勤怠管理システムや「アルろく for LINE WORKS」等のAIプロダクトのサブスクリプション売上拡大
- 資本業務提携したゲームカードホールディングス社との取引増加
- 好調な新卒採用を中心とした採用増加

エンジニアリング

- 2025年8月期の期中に発生した人員減の影響が残り、売上高は前期比▲8.8%となった
- 人員減は収束し、案件増により請負工数が増加。採用も新卒・中途ともに強化中

GPUサーバー

- 令和7年度税制改正により主力売上が暗号通貨のマイニングマシンからAI開発用途向けのGPUサーバーにシフトしたことで、売上高は前期比▲17.2%の減収となった
- 一方、粗利率の改善と販管費の抑制により、通期の営業損益は10百万円の黒字に転換

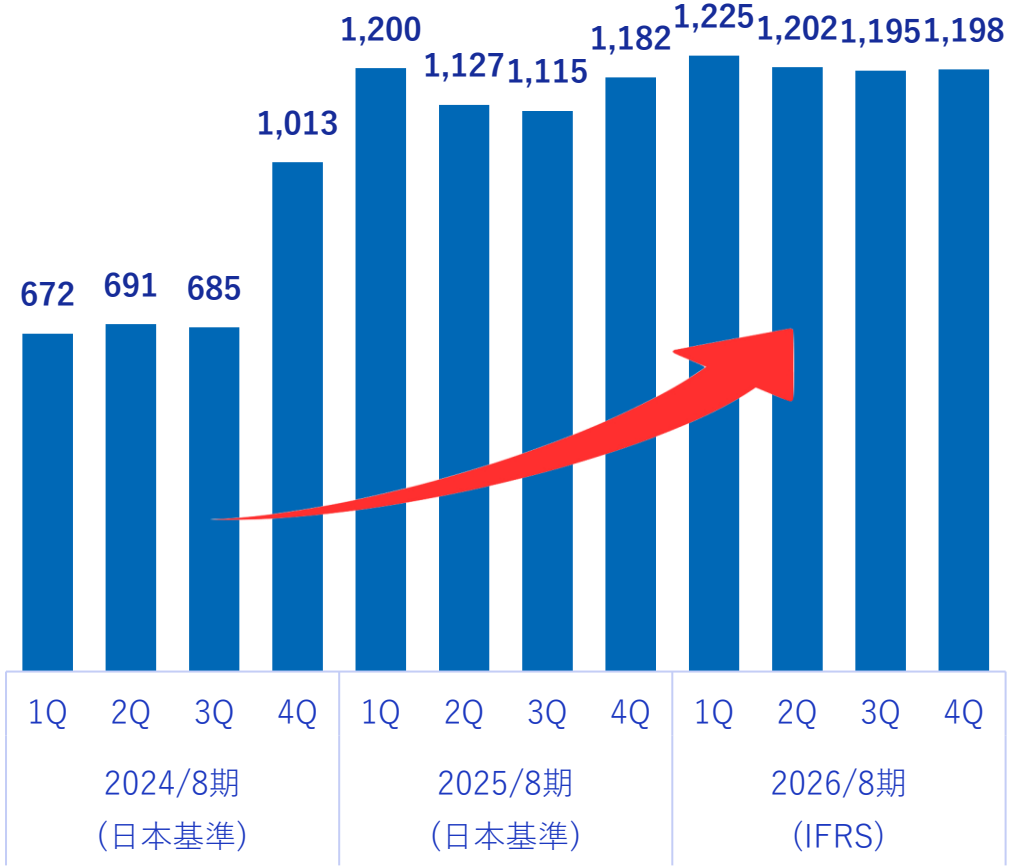
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AIソリューション事業業績

AIソリューション事業においては、AIインテグレーションサブセグメントにおけるAI案件の好調な受注により通期を通じて好調を維持、エンジニアリングサブセグメントの安定稼働による利益上昇もあり、**通期で売上4,822百万円及び営業利益159百万円**で着地。4Q会計期間は新卒人件費及び研修費(今年はグループで新卒39名)に加え、**決算賞与の追加計上(33百万円)等**により、営業損益は小幅の赤字(△12百万円)となった。

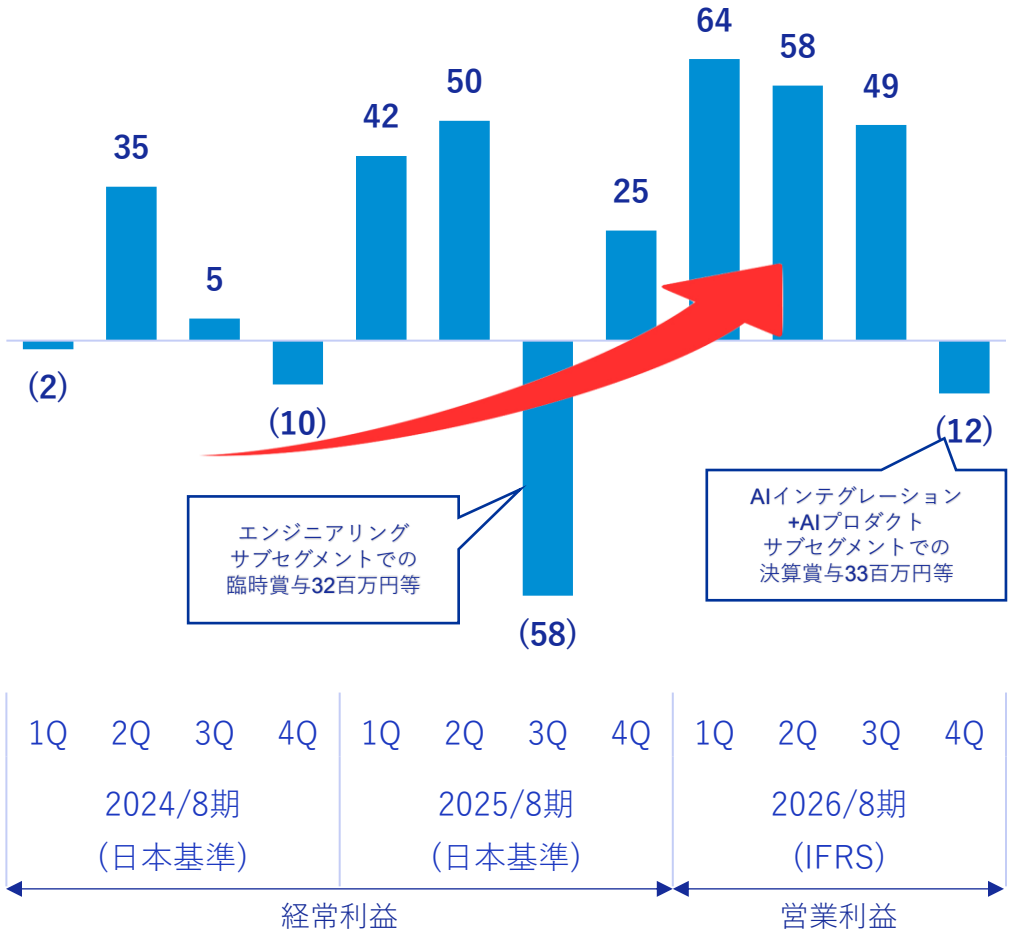
売上高

(単位:百万円)



経常利益/営業利益

(単位:百万円)



※これまでは日本基準の経常利益をKPIとして重視しており、26年8月期からはIFRSは経常利益という概念が無いため営業利益を並べて表示しております

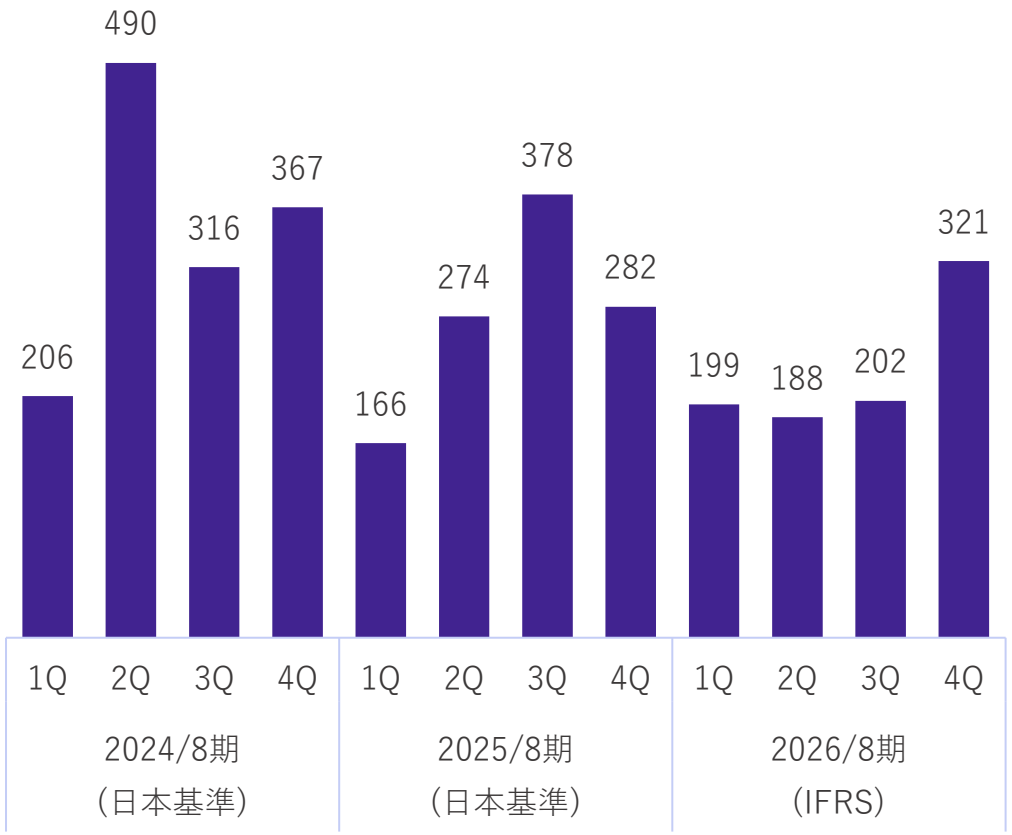
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

GPUサーバー事業業績

特定代理店との協業拡大によりAI開発用途向けGPUサーバーの販売が進捗し、また、広告費などの調整により販管費が減少し、**4Q会計期間で営業利益39百万円を計上、通期でも10百万円の黒字に転換**。また、ゼロフィールドが保有する棚卸資産について、収益性の低下に基づく簿価切下げ(**棚卸資産評価損29百万円**)を売上原価に計上。**当該棚卸資産評価損計上前の通期営業利益は40百万円**で着地。

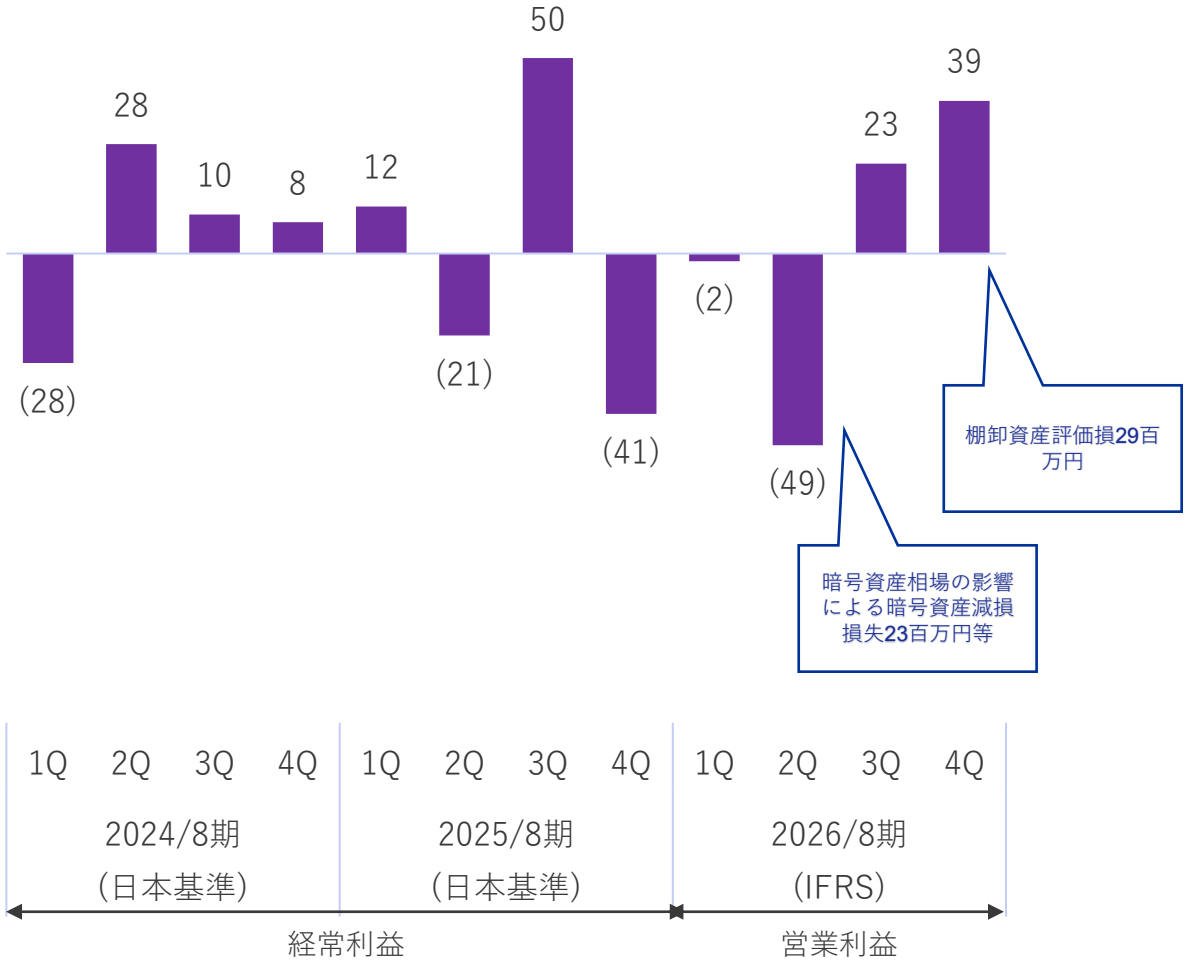
売上高

(単位:百万円)



経常利益/営業利益

(単位:百万円)



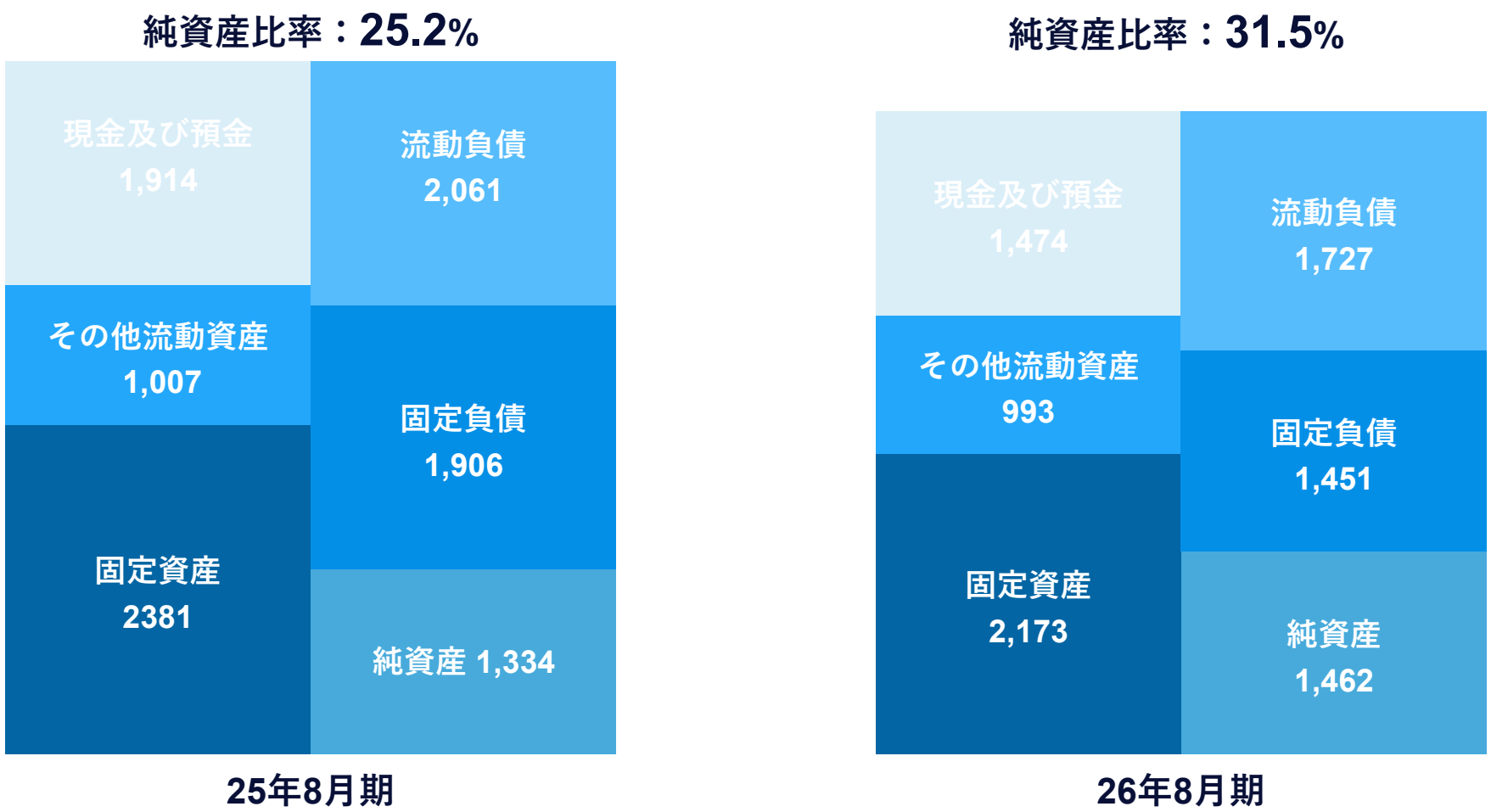
※これまでは日本基準の経常利益をKPIとして重視しており、26年8月期からはIFRSは経常利益という概念が無いため営業利益を並べて表示しております

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

貸借対照表

GPUサーバー事業の棚卸資産評価損29百万円を計上したものの、当期包括利益135百万円の計上等により純資産は127百万円増加。また借入金の返済等（社債及び借入金285百万円減）で総資産が662百万円減少し、純資産比率は31.5%に上昇、財務体質は改善

(百万円)



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

財務諸表詳細

(単位：千円)	2024年8月期(日本基準) 1Q	2Q	3Q	4Q	2025年8月期(日本基準) 1Q	2Q	3Q	4Q	2026年8月期(IFRS) 1Q	2Q	3Q	4Q
売上高合計	877,890	**1,156,695**	**999,052**	**1,376,898**	**1,363,578**	**1,398,544**	**1,491,471**	**1,460,436**	**1,421,910**	**1,388,048**	**1,395,060**	**1,517,209**
AIソリューション事業	672,836	691,431	685,210	1,013,335	1,200,700	1,127,434	1,115,695	1,182,579	1,225,599	1,202,279	1,195,905	1,198,872
GPUサーバー事業	206,553	490,313	316,992	367,312	166,178	274,109	378,476	282,237	199,433	188,891	202,278	321,459
消去調整	△1,500	△25,050	△3,150	△3,750	△3,300	△3,000	△2,700	△4,381	△3,123	△3,123	△3,123	△3,123
売上総利益合計	236,853	**432,613**	**359,494**	**445,551**	**433,712**	**453,037**	**470,431**	**374,763**	**461,245**	**428,168**	**488,162**	**522,241**
AIソリューション事業	169,709	196,816	183,836	275,856	375,193	329,221	269,738	226,645	343,583	332,366	359,068	304,942
GPUサーバー事業	68,644	260,846	178,807	173,445	61,819	126,816	203,295	150,843	120,687	98,747	132,158	220,386
消去調整	△1,500	△25,050	△3,150	△3,750	△3,300	△3,000	△2,602	△2,725	△3,025	△2,945	△3,064	△3,086
販売費及び一般管理費合計	309,825	**370,539**	**328,881**	**426,726**	**462,887**	**445,371**	**470,864**	**414,667**	**431,050**	**414,395**	**430,276**	**508,297**
AIソリューション事業	172,680	161,624	174,664	281,674	322,800	295,823	323,073	217,412	285,348	284,807	313,380	322,815
GPUサーバー事業	138,641	233,964	157,366	148,802	144,426	152,779	150,634	200,171	148,942	132,750	120,175	188,784
消去調整	△1,497	△25,050	△3,150	△3,750	△4,340	△3,231	△2,844	△2,916	△3,241	△3,161	△3,280	△3,302

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

財務諸表詳細

(単位：千円)	2024年8月期(日本基準) 1Q	2Q	3Q	4Q	2025年8月期(日本基準) 1Q	2Q	3Q	4Q	2026年8月期(IFRS) 1Q	2Q	3Q	4Q
営業利益・損失(△)合計	**△72,971**	**62,073**	**30,612**	**18,824**	**△29,174**	**7,665**	**△432**	**△39,904**	**61,883**	**8,425**	**73,462**	**26,545**
AIソリューション事業	**△2,971**	35,192	9,171	△5,817	52,392	33,398	△53,335	9,232	64,052	58,363	49,489	△12,564
GPUサーバー事業	**△69,996**	26,881	21,440	24,642	△82,607	△25,963	52,660	△49,327	△2,168	△49,938	23,972	39,109
消去調整	**△2**	—	—	—	1,040	231	241	190	—	—	—	—
経常利益・損失(△)合計	**△30,723**	**64,323**	**15,816**	**△1,945**	**54,943**	**29,293**	**△7,703**	**△16,758**	—	—	—	—
AIソリューション事業	**△2,613**	35,524	5,767	△10,529	42,644	50,350	△58,262	25,207	—	—	—	—
GPUサーバー事業	**△28,107**	28,798	10,049	8,583	12,298	△21,057	50,559	△41,965	—	—	—	—
消去調整	**△2**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
税金等調整前四半期純利益・損失(△)	**△35,589**	64,323	6,968	△142,153	44,657	30,895	△286,479	△38,753	52,703	2,006	63,499	△20,379
四半期純利益・損失(△)	**△25,066**	**54,689**	**12,447**	**34,885**	**47,715**	**△8,959**	**△367,238**	**△15,517**	**29,292**	**6,909**	**48,463**	**15,942**
現金及び預金	**1,788,777**	**1,694,885**	**1,788,479**	**1,613,923**	**2,476,733**	**2,461,237**	**2,444,005**	**1,914,180**	**1,727,060**	**1,493,975**	**1,494,278**	**1,474,622**
純資産額	**607,038**	**661,728**	**682,740**	**849,927**	**2,029,814**	**2,040,477**	**1,676,939**	**1,665,409**	**1,364,023**	**1,366,776**	**1,414,909**	**1,462,094**

※2026年8月期より、IFRSを適用した数値を記載しております、IFRSにおいては、経常利益の概念が無いため「ー」としています

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

2027年8月期 業績予想について

当社は、2027年8月期の連結業績予想につきまして、**現時点では開示を行わないこととといたしました。**連結子会社である株式会社ゼロフィールドの全株式譲渡に向けた売却活動が進捗中であり、いずれの前提に基づく予想を開示した場合でも投資家の皆様の判断を誤らせる可能性があるためです。

1. 業績予想の開示を行わない理由

- 連結子会社である株式会社ゼロフィールドの全株式譲渡に向けた売却活動が進捗中であり、譲渡の完了時期及び譲渡価額が確定していない
- ゼロフィールドを含めた連結ベースの業績予想、ゼロフィールドを含まない業績予想のいずれを正式な予想として開示した場合でも、投資家の皆様の判断を誤らせる可能性がある

2. 今後の対応

- 株式譲渡の条件が確定し、合理的な業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします
- 次ページに、ゼロフィールドを非継続事業に分類することが確定した場合のAIソリューション事業の数値を参考として記載しております

※ 株式譲渡の条件確定等により合理的な業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

(参考) 2027年8月期 AIソリューション事業の業績見通し

本株式譲渡に係る交渉が進捗し、2027年8月期末の時点で、本株式譲渡が完了している、または1年以内に完了する可能性が非常に高いと認められる場合には、IFRS第5号「売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業」に基づき、株式会社ゼロフィールドが運営するGPUサーバー事業を非継続事業に分類することを見込んでおります。

GPUサーバー事業を非継続事業への分類が確定した場合の、継続事業(AIソリューション事業)の参考数値は次のとおりです。27/8月期計画は、更なる売上総利益率の改善を見込んでおり（別頁にて説明）、決算賞与、営業強化に関わる投資及び自動車設計AIプロダクトに関わる投資についても織り込んだ上で策定しております。

（単位：百万円）	2026/8 実績	2027/8 見通し	前期比
売上収益	4,822	5,030	104.3%
AIインテグレーション・AIプロダクト	3,262	3,400	104.2%
エンジニアリング(BEX)	1,581	1,650	104.4%
売上総利益	1,339	1,572	117.3%
営業利益・損失(△)	159	190	119.5%
当期利益・損失(△)	99	未定	—

※1 本表は継続事業（GPUサーバー事業を非継続事業に分類）ベースの参考数値であり、正式な業績予想として開示するものではありません。
※2 金額は百万円未満切り捨て、前期比は2026年8月期実績に対する比率です。サブセグメント合計との差異は連結消去によるものです。
※3親会社の所有者に帰属する当期利益は、現時点において本株式譲渡の譲渡価額が未定であることから、合理的な算定が困難であるため、未定としております。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

資金使途

過去に調達しました資金の計画については以下の通りに変更いたしております。

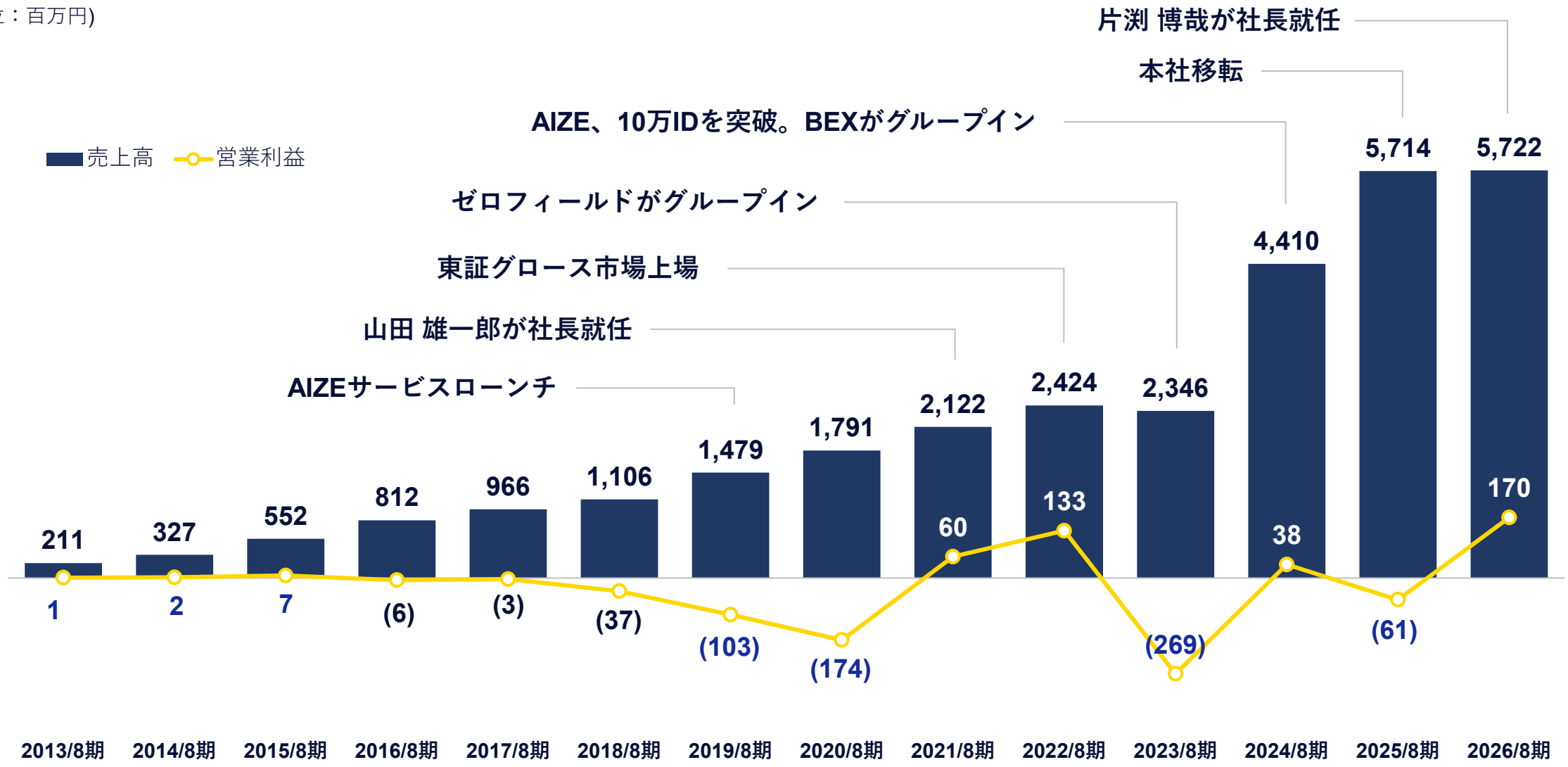
使途　（単位：千円）	予定金額計 実績金額計	2024年8月期計画 2024年8月期実績	2025年8月期計画 2025年8月期実績	2026年8月期計画 2026年8月期実績	2027年8月期計画 2027年8月期実績	2028年8月期計画 2028年8月期実績
2023年9月実施　第三者割当増資に伴う調達資金の使途	**298,949** **262,687**	**71,017** **71,017**	**132,536** **132,536**	**59,133** **59,133**	**36,261** **-**	**-** **-**
技術への投資 （顔認証AIエンジンの精度向上、AIZE Biz他社勤怠システム連携機能開発、 感情推定AIエンジンの技術企画、生成AI業務実装サービスの研究開発、 連結子会社ゼロフィールドにおけるGPUサーバー新商品開発）	298,949 262,687	71,017 71,017	132,536 132,536	**59,133** 59,133	36,261 -	- -
2024年9月実施　第三者割当増資に伴う調達資金の使途	**510,292** **418,942**	**-** **-**	**380,292** **380,292**	**38,650** **38,650**	**70,200** -	**21,150** -
AI導入による設計業務の効率化システム 図面・部品・自動車法規制に関わるIT開発 設計業務情報に係る生成AI関連開発	180,000 118,850	- -	100,000 100,000	18,850 18,850	40,000 -	21,150 -
AIデータセンター構築	150,000 119,800	- -	100,000 100,000	19,800 19,800	30,200 -	- -
借入金の返済	180,292 180,292	- -	180,292 180,292	- -	- -	- -
2024年10月実施　第三者割当増資に伴う調達資金の使途	**713,800** **100,000**	**-** **-**	**-** **-**	**100,000** **100,000**	**0~613,800** -	 -
M&A待機資金(※) （AIソリューションセグメントにおけるロールアップM&A、 当社グループと事業シナジーが見込めるレガシー産業の事業会社のM&A）	613,800 -	- -	- -	- -	613,800（2026年11月～2028年8月で実施） -	 -
借入金の返済 （自己資本比率向上のための既存借入金の返済）	100,000 100,000	- -	- -	100,000 100,000	- -	- -

(※)当社が希望する条件のM&Aが成立に至らなかった場合は、資金使途の変更について速やかに開示いたします。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

売上高及び営業利益推移

(単位：百万円)



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

INDEX

01 | 会社概要

02 | 市場環境

03 | 競争優位性

04 | 成長戦略

05 | 財務情報

06 | Appendix

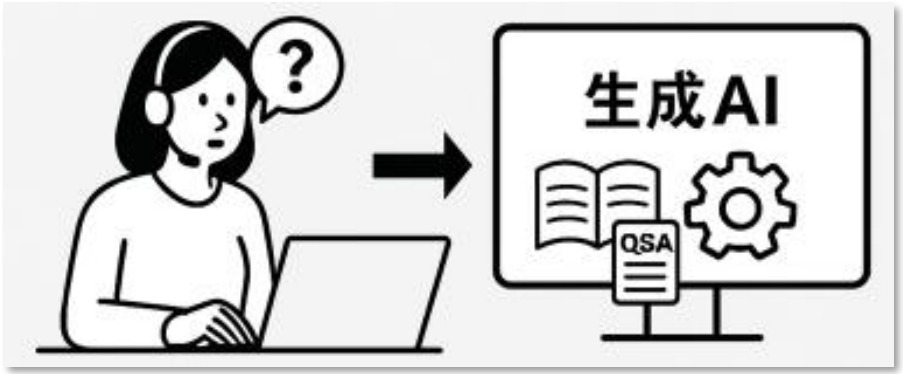
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

DXが加速する製造業でのAIラボ事例

Case study 製造業 A社

生成AIで自社製品問い合わせ業務を効率化

RAG （検索拡張生成）システムの構築



◆自社製品のマニュアルや過去のQAでRAG構築

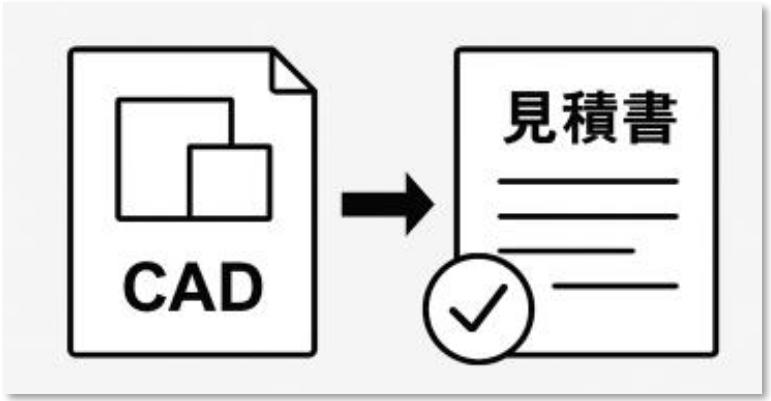
◆既存のLLMで学習していないドメインデータや専門用語でも上手く回答できるようチューニング

◆カスタマーサクセス部門の一次問い合わせの代行、作業時間大幅削減

Case study 製造業 B社

設計書図面(CAD)から見積書の自動生成

AIで自動作成、自動チェック



◆過去の見積修正履歴から、設計書の間違いを指摘提案

◆図面情報と自社対応する製品を組み合わせ、見積作成

◆作業者の作業を大幅に短縮、見積業務の属人化改善



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

DXが加速する製造業でのAIラボ事例

Case study 製造業（食料品）c社

食品工場における作業者の衛生チェック

顔認証AIを活用した業務管理自動化



https://www.meijo.co.jp/security/factory/

◆TOFセンサー*と顔認証を連動　*光の飛行時間を用いるセンサー

◆作業員がマスク・ゴーグル・手袋など装着しているか確認

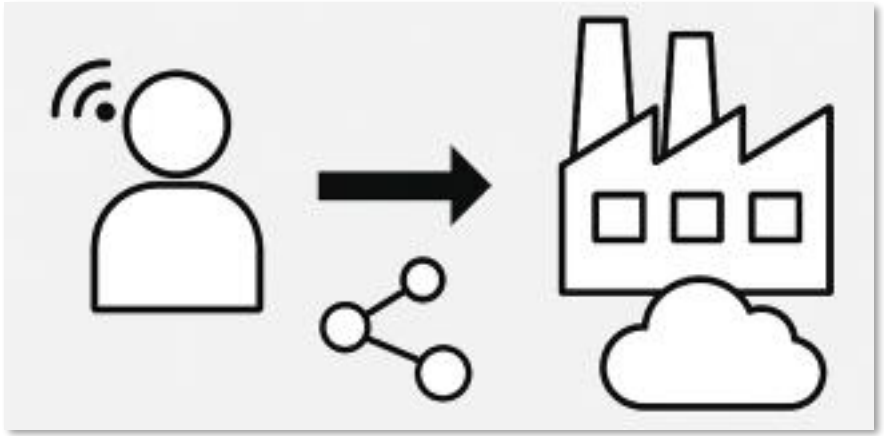
◆作業員が白衣に着替えた状態で、静電気・コロコロ・除菌

◆衛生チェックをしていない場合は、工場内の入室ドアが開かないように制御

Case study 製造業 D社

工場における生産ライン設計の効果測定

作業者の位置情報を可視化して
経路最適化と業務効率化に



◆Beaconを作業者に装着

◆工場に設置されたセンサーから位置情報を獲得

◆大量の人員と大量のトランザクションをAIがクラウド上で可視化

◆生産ライン設計の最適化にフィードバック

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

多くの業種に広がるAI導入実績

Case study 製造業 E社

社内向け生成AI導入サポート

セキュアかつ高速に業務活用を実現



◆複数企業への導入支援を開始

◆最短2週間で構築可能な高速開発レシピを提供

◆セキュアな環境で画像生成AIも利用可能

Case study 不動産会社 F社

AIで物件提案を支援するPoC

データ分析とマッチングAIで営業を革新



◆統計モデルと機械学習により成約傾向を数値化

◆顧客属性と物件特性のベクトル化による類似度計算

◆高精度なレコメンドで営業活動の精度と効率を向上

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

多くの業種に広がるAI導入実績

Case study 印刷業G社

文書校閲AIの技術支援

BERTを活用し幅広い文書の
自動校閲に対応



◆契約書・約款・プレスリリースなど多様な文書に対応
◆誤字脱字や二重敬語、表現の揺れを検出
◆専門用語の誤用や不適切表現も添削

Case study 飲食チェーンH社

画像認識AIによる調理品判定

レストランの提供品質を
AIで可視化・管理



◆厨房とホール間に設置したカメラで料理を自動判定
◆提供時間をAIが自動で計測しオペレーションを改善
◆将来的には盛り付けの正確さもAIで評価

Case study 製造業 I社

よりセキュアなAI導入

エッジAIによる機密性の
高い現場での顔認証



◆クラウド未使用環境に導入可能
◆産業用CPUボードやGPUエッジ端末への組込実績あり
◆セキュアな顔認証を現場単体でリアルタイムに実行

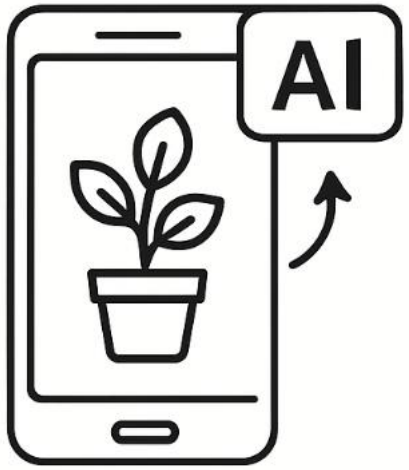
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

多くの業種に広がるAI導入実績

Case study アプリ開発 J社

植物判定AIの精度を大幅改善

画像判定アプリの機能を
画像認識技術で強化



◆AI判定精度を50％から90％以上に向上
◆犬猫など非植物画像との判別精度も向上
◆品種追加やメンテナンスが容易な設計実現

Case study 生花ECサイト K社

生花トレンド可視化システム

SNSと出荷量データを統合
需要を分析

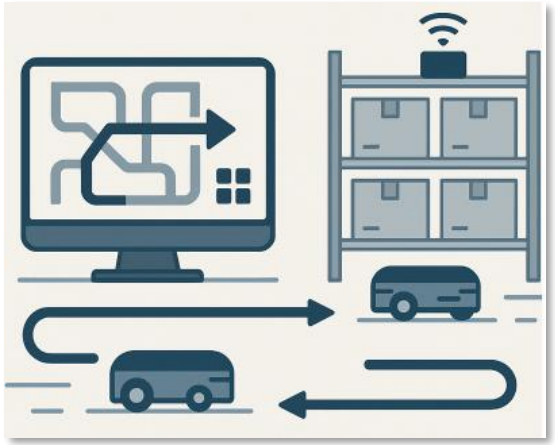


◆生花ECサイトと卸売市場の情報を連携分析
◆品種ごとのSNS反応と出荷量の関係性を可視化
◆バズ検知や傾向分析で仕入・販促をデータで支援

Case study 物流業L社

無人搬送車の経路最適化AI

倉庫内搬送効率向上に向けたPoC



◆ヒューリスティック手法で渋滞を回避し再ルート提案
◆モンテカルロ木探索により搬送量を考慮した経路選択
◆強化学習で自己学習し搬送効率最大化を目指す設計

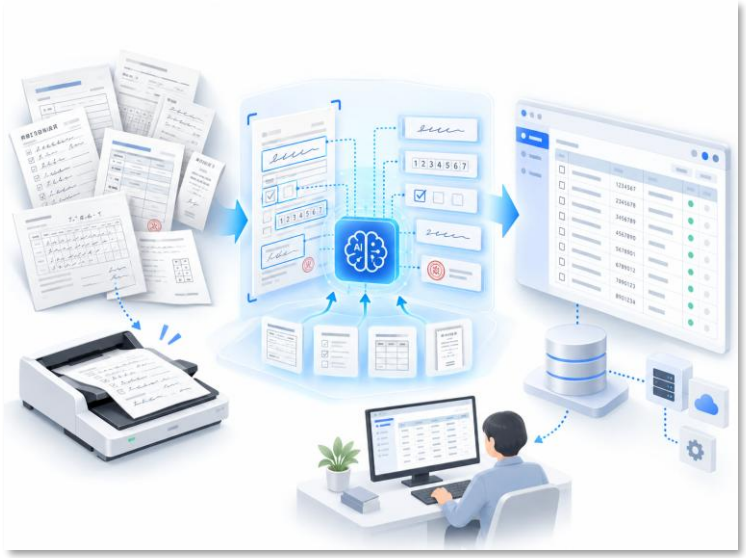
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

多くの業種に広がるAI導入実績

Case study 印刷業 Q社

AI-OCRによる帳票データ化

手書き・多様なフォーマットの帳票を自動読取



◆申込書・アンケートなど大量の帳票入力業務に活用
◆手書きや非定型の帳票もAI-OCRで高精度に読み取り
◆読取結果をデータ化し、既存システムへ連携
◆入力作業・目視チェックの工数を大幅に削減

Case study 印刷業 R社

AIによるスキャン画像のノイズ除去

必要な文字だけを残し仕上がり品質を向上



◆スキャン時に乗ったゴミ・汚れをAIが自動検出
◆周囲の色に合わせて白・黒で塗りつぶし、ノイズを除去
◆必要な文字・図版だけを残し、仕上がり品質を向上
◆手作業による画像修正の工数を削減

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

ゼロフィールドのデータセンター運用能力

2018年から国内外で合計6拠点のデータセンターを展開するゼロフィールドは、2024年にコンテナ型データセンター『DINO Rex』を開発。 顧客ニーズに合わせてカスタマイズできるDINO Rexは、暗号資産マイニングだけでなく生成AI向けエッジデータセンターとしても活用可能。短期間で設置できるため、安価な電力の新たな活用方法として販売を広げている

コンテナ型データセンターによる余剰電力活用の提案

コンテナ型データセンターとは、エッジでのサーバー稼働に最適化された設備を備えた可搬型の省スペース施設



コンテナ型・モジュール型データセンターの独自開発



◀コンテナ型データセンター
【ニーズに合わせてフレキシブルにカスタマイズ可能】



▲モジュール型データセンター
【福井大学との共同開発の排気システム搭載】

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

事業に関する主なリスクについて

項目	リスク	対策	発生可能性	影響度
事業環境の変化	AIソリューション事業の領域には国内外多くのIT企業が参入しており、市場は形成期にあります。生成AIによる大きな変化が生じる中で、事業環境がさらに大きく変化する可能性があります。	最新の技術動向や市場環境の変化を把握できる体制を構築、AIに関する論文のサーベイ、マーケティング調査の実施のみならず、業界のオピニオンのキャッチアップを仕組み化しております。	中	中
画像データの利活用に関する法令などの規制	単に個人情報保護法等の法令を遵守するのみならず、プライバシー保護の観点より考慮する必要があります。関連する法令等が改正され、あるいは社会的な要請が大きく変化した場合には、事業に影響を及ぼす可能性があります。	総務省・経済産業省より公表された「カメラ画像利活用ガイドブックver.3.0」（2022年３月）を参照し、法令及び社会規範上認められると判断した範囲内において、画像情報の利活用を行っておりますが、今後も関連法案の修正に備えセキュリティ技術の向上に努めております。	中	大
個人情報の保護	「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者として義務を課されており、プライバシー保護の観点から広範な配慮が求められています。情報の漏洩、不適切な利用等について配慮が不足した場合には、レピュテーションリスク等によって事業に影響を及ぼす可能性があります。	情報の漏洩防止はもちろん、不適切な利用等の防止のため、情報管理を経営上の重要事項と考え、社内においてもこれらの情報へのアクセスを制限するとともに、「情報セキュリティ管理規程」「個人情報取扱規程」等を制定し、全従業員に対する社内教育を実施するなど、法令及び関連するガイドラインの遵守体制を整えております。	中	大
固定資産の減損	株式会社ゼロフィールドおよび株式会社BEXの子会社化に伴い、のれんをはじめとした固定資産が増加しています。事業環境の変化に伴い、それぞれの事業が計画通りに進捗せず、将来キャッシュ・フローの低下が見込まれる場合等には、減損損失を認識する必要が生じます。多額の減損損失を認識した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。	株式会社ゼロフィールドおよび株式会社BEXのグループイン後、それぞれの会社に当社より取締役を派遣し、また当社管理部門の事業管理業務への参画により、ガバナンスを強化し、また既存事業の運営だけでなく新規事業開発に共同で取り組んでおります。	中	大

昨年まで本ページに記載していた項目『暗号資産の市場価格の変動』については、株式会社ゼロフィールドにおける保有暗号資産が減少し、現在は潜在リスクが減少したことから、項目から削除しております。

また、その他のリスクについては、当社が提出する有価証券報告書をご参照ください。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

直近リリース

2026.05.14	トリプルアイズと千葉大学、包括連携協定を調印 ― 全学部・全学年対象のAIアプリ開発演習を通じて、次世代DX人材の育成を推進 ―
2026.05.28	トリプルアイズの現役エンジニアが母校・HAL東京にて特別講義の教壇に ～AI開発の最前線を走る卒業生が、次世代のIT人材へ「現場で活きる AI実装スキル」を直接指導～
2026.06.16	トリプルアイズグループの所司一門将棋センター、将棋サロン西荻事業を譲受 ～AIと将棋の融合による人的資本強化と企業価値向上～
2026.07.23	「アルろく for LINE WORKS」が直近1年間で利用ID数が501%増 ― LINE WORKSとの連携を強みに導入拡大推進、現場DXを支えるサービス群も展開―
2026.07.29	トリプルアイズの顔認証AIがクロスキャット「CC - BizMate」と連携開始 －AI顔認証による打刻で不正を防止。管理部門の省力化と多様な働き方に対応－
2026.08.18	トリプルアイズ「将棋採用」がオンライン対局に対応 ～全国どこからでも挑戦可能に。地方在住の方のエントリーを歓迎～
2026.09.01	トリプルアイズ、上級執行役員1名・執行役員1名が就任 事業成長のスピードを高める新体制へ
2026.09.07	連結子会社株式会社ゼロフィールドの代表取締役異動および 今後の運営方針に関するお知らせ

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

用語集

AI	AI(Artificial Intelligence：人工知能）とは、人間の知的ふるまいの一部を、ソフトウェアを用いて人工的に再現したもの。 経験から学び、新たな入力に順応することで、人間が行うように柔軟にタスクを実行する。
特徴量	特徴量とは、コンピュータが学習するデータにどのような特徴が含まれているのか数値化したもの。
エンジン	エンジンとは、特定の情報処理を実行するためのひとまとまりになったソフトウェアやシステムなどのこと。
システムインテグレーション	システムインテグレーション（System Integration：SI）とは、企業の情報システムの導入に際し、ユーザーの目的に応じた企画の提案からハードウェア、ソフトウェアの選定、システムの開発や構築、運用までのトータルなサービスを提供することを指す。
DX	DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）とは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念であり、企業においては、概ね「AI、IOT、クラウドコンピューティングなどのテクノロジーを利用して、ビジネスモデルや製品・サービス及び業務・プロセス・組織風土を変革させ、競争優位性を高めること」という意味合いで用いられる。
Sier	SIerとは、クライアントの業務を把握・分析し、その課題を解決するようなシステムの企画、構築、保守・運用までの全工程を一貫して請け負う業者を指す。

ブロックチェーン	ブロックチェーンとは、データが地理的に離れたサーバーに分散保持され、一定の形式や内容のデータの塊（ブロック）を改竄困難な形で時系列に連結していく技術。
IoT	IoT（Internet of Things：モノのインターネット）とは、あらゆる「モノ」がインターネットに接続される仕組みのこと。
オンプレミス	システムの稼働やインフラの構築に必要となるサーバーやネットワーク機器、あるいはソフトウェアなどを、使用者が管理している施設の構内に機器を設置して運用することをいう。
マイニング	暗号資産（仮想通貨）のマイニングとは、取引などのデータをブロックチェーンに保存する作業を行い、その報酬として暗号資産を得る行為のこと。
プロンプトエンジニアリング	生成AIは、命令（プロンプト）の出し方によって、出力されるコンテンツの質が大きく異なるため、AI（人工知能）から望ましい出力を得るために、指示や命令を設計し最適化する技術のこと。
ファインチューニング	機械学習において、大量のデータで事前学習されたモデル（事前学習済みモデル）に対して、解きたいタスクに応じた独自のデータを追加で学習させ、新たな知識を蓄えたモデルを作り出す技術。
GPGPU	General-purpose computing on graphics processing unitsの略。 GPUの演算資源を画像処理以外の目的に応用する技術のことである。
トークン	企業または個人により、既存の暗号資産（仮想通貨）をプラットフォームとして、そのシステムを間借りする形で発行される、独自のブロックチェーンを持たない暗号資産のこと。広義では、既存の暗号資産そのものをトークンと呼ぶこともある。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

VISION

トリプルアイズの経営理念

テクノロジーに想像力を載せる

Realize Customize Maximize

TRIPLEIZE

免責事項

- 本資料は、当社の計画、見通し及び戦略に関して、適切な理解を促進することを目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。投資に際しては、投資家様ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。
- 本資料に記載された全ての数値、指標等が監査法人による監査又はレビューの対象ではない点にご留意ください。
- 本資料のアップデートは今後、本決算の発表時期(11月)を目途として開示を行う予定です